

月刊FALCOM MAGAZINE Vol.62

大きなニュースが続々と到着！

イースⅧ -Lacrimosa of DANA- 最新情報!!

ドラマCD『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ ～辺境の里アルスター～』シナリオ掲載！

ついに発売日や製品情報が到着！
英雄伝説 空の軌跡 the 3rd Evolution

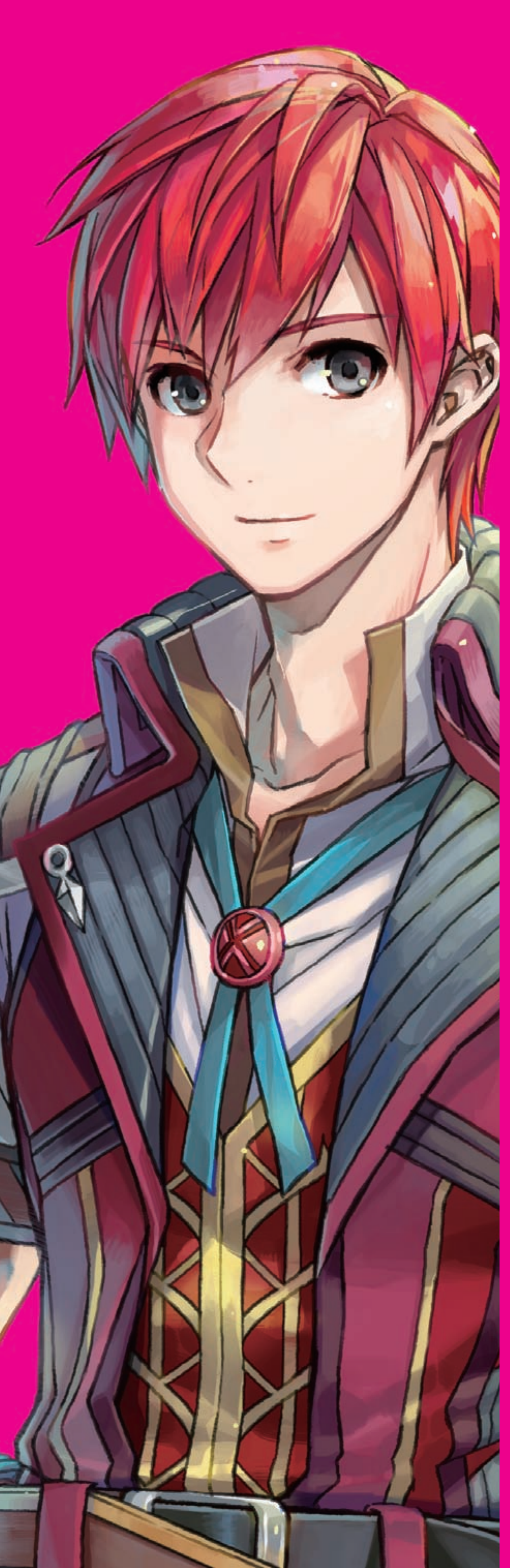
エステル＆ヨシュアのファルコム空の軌跡ラジオの舞台裏

ファルコムニュース

エリゼの危機にリィンは……
英雄伝説 閃の軌跡

ティオの杜宮市探訪？
みんな集まれ! ファルコム学園

イラストメッセージ
啄木鳥しんき



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

ついに発売日が決定!!
さらにはメインキャストが発表!&キャストコメントも続々と到着!

4年ぶりとなるシリーズ最新作『イースⅧ』。今回はついにその発売日が公開となった！ さらにはアドルたちメインキャラクターの新情報や、気になるキャストも到着！ 収録を終えたキャスト陣のコメントも到着しているので、あわせてチェックしてみよう！

●製品情報
■タイトル　：イースⅧ -Lacrimosa of DANA-
■発売日　：PS Vita版 ………… 2016年7月21日(木)
　PS4版 ……………… 2017年予定
■ジャンル　：アクションRPG
■対応機種　：PlayStation®4、PlayStation® Vita対応
■プレイ人数：1人
■CEROレーティング：審査予定
■コピーライト：

■メインキャスト
アドル=クリスティン：梶裕貴
ダーナ：大西沙織
ラクシャ：高森奈津美
サハド：木内秀信
ヒュンメル：KENN
リコッタ：山本希望








ヒュンメル（CV：KENN）

《セイレン島》に漂着後も単独行動を続けている謎多き24歳の青年。“運び屋”を稼業としており、その仕事中に今回の事件に巻き込まれてしまった。自分の仕事に誇りを持っており、状況に置かれてもなお、依頼の達成を果たすべく動いているようだ。砲を小型化した最新鋭の武器・銃を自身の得物としている。



使用武器：銃剣（射撃）

遠距離に対しては銃撃、近距離に対しては銃の先端に装着した剣を用いてそれぞれ攻撃を行う。攻撃の命中精度が非常に高く、飛行タイプの敵には無類の強さを誇る。ただ、攻撃が直線に特化しているため、左右や背後からの攻撃に対しては充分に注意が必要。



オレは何でも運ぶ。
――例え、それが死骸やご禁制のものであってもな。





スキル攻撃：精密射撃

離れた敵に狙いを定め、正確に射抜くことができるスキル攻撃。構えてから発射の間に方向キーを動かすことができるため、動く対象にあわせて照準を修正することができる。




リコッタ（CV：山本希望）



アドルたちが漂着した《セイレン島》で暮らしていた12歳の少女。天真爛漫な性格で、アドルたちともすぐ打ち解ける。また島の地理や古代種の生態にも詳しい。島に流れ着いた書物などから知識や言葉を修得しているが、系統立てて学べているわけではないので、その知識や言葉遣いには偏りや誤用も多い。

使用武器：ウィップメイス(打撃)

島に自生している植物から作られた棍棒。持ち手の部分と棍棒の部分は伸縮性のあるツルで繋げられているので、それを振るうことで広範囲の敵にダメージを与えることができる。打撃属性だが小回りが利き、手数で押していくことができる。



ボロい建物、おっきい木。アドル、オマエの好きなものいっぱい！





スキル攻撃：お手製トラップ

島の獣を捕るためにリコッタが生み出したトラップ。地面に設置されたトラップを敵が踏むと一定時間行動不能にすることができる。また、トラップだけでも徐々に体力を奪うことができる。





漂流村でアドルたちを支える心強い仲間たち！

今作のアドルはロンバルディア号での航海中に事故に巻き込まれ、《セイレン島》へと流れ着くのだが、そこで彼ら漂流者は「漂流村」を作り、島からの脱出を目指すこととなる。今回はその漂流村の中心人物となるロンバルディア号の船長・バルバロスと、アドルの相棒といえばこの人・ドギの情報も到着したぞ！

アドル、冒険家としての君の知恵と行動力に期待しているぞ。



バルバロス（CV：掛川裕彦）

アドルたちが乗船していたロンバルディア号の船長。海の男らしいたくましい外見だが、物腰は丁寧かつ誠実で、船員からも乗客からも信頼は厚い。漂流村においても、漂流者をまとめるリーダー的存在となる。

やれやれ、毎度のこととは言え、お前さんといると本当に退屈しないぜ。



ドギ（CV：三宅健太）

4年前の古代王国イースを巡る冒険でアドルと出会って以来、数々の冒険を共に行ってきた無二の相棒。今回もアドルとともにロンバルディア号に乗船していたのだが、その船の沈没とともに消息不明となってしまう。



オレサマ、イロイロ ツタエル。ダカラ、エサ、ヨコセ。

リトル・パロ（CV：龍田直樹）

バルバロスが島で見つけたオウム。人間の言葉をすぐに習得し、アドルたちと漂流村とを繋ぐ伝令役を果たすことになる。ただ、その口調は多くの漂流者たちの言葉遣いが混ざっているため、時に珍妙なものとなってしまう。

《セイレン島》の各地にいる漂流者を漂流村に集めて村を発展させよう！

アドルたちは《セイレン島》で漂流村と呼ばれる拠点を作り、冒険を行うことになるのだが、島内で漂流者を見つけ出し、漂流村に連れ帰ることで、住民がどんどんと増えていき、その住民の特性により機能も拡張させていくことができるのだ。最初はただ岩に囲まれただけの村だが、バルバロスやドギを中心に村を発展させていくことで、イベントが発生していくほか、寝所や台所、ショップなど、冒険に欠かせない便利な機能も増えていくので、島の隅々まで巡り、漂流者を漏らさず救出しよう！















漂流者発見のメリットは村だけじゃない! 探索ルートの開拓も可能に!

アドルたちの冒険の道中には、巨大な倒木や巨石など、アドルたちだけでは取り除くことができない障害物も多数存在している。しかし、村の住人が増えていくことで「支援イベント」が発生し、それらの障害物を取り除くことができるようになるのだ。支援イベントにより新たな冒険ルートが解放されると、リトル・パロが情報を届けてくれるので、エリア探索の大きな助けとなってくれること間違いなしだ。







『イースⅧ』収録を終えたばかりのキャスト陣からコメントが到着！

前作『セルセタの樹海』でアドルを演じられた梶裕貴さんを筆頭に、今回も豪華キャスト陣が参加した『イースⅧ』。ここではその収録を終えた直後の声を、一挙掲載していくぞ！今後もキャラクターが追加され次第、コメントを掲載していくので、お楽しみに！

●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
大西：30年近く続いているシリーズに参加させていただくことができて、とてもうれしいです。この作品でしか味合うことのできない魅力や新しいことがたくさんあると思います。このシリーズを長く愛していただいている方も、この作品からプレイをしていただく方も楽しめるものになっていると思います。

アドル＝クリスティン役 梶 裕貴さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
梶：アドル役は今回も、基本的にはシステムボイス中心の収録となりましたが、その中でアドルの誠実さや力強さを出せたらいいなと思いながら演じさせていただきました。『セルセタの樹海』からこのシリーズに参加させていただいているのですが、間にアニメ『ファルコム学園』を挟み、久しぶりに正統派のアドルを演じさせていただくことができてうれしかったです。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
梶：イラストの雰囲気もあってか、前作よりたくましく成長していたように感じました。先ほどもお話させていただいた通り、今回もシステムボイスがメインの収録だったので、ストーリーの大筋しかお聞きできていないのですが、それだけでもとても『イース』らしい物語になっているんだなと感じました。口数が少ないながらも、仲間たちを力強く引っ張っていってくれるはずです。



●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
梶：完全新作の『イース』ということで、作品ファンの方々は本当に楽しみにされていたかと思います。そういった期待作で再びアドルを演じさせていただくことができて、とても光栄です。アドルの魅力を余さずお届けすることができればと思い、力いっぱい演じさせていただきましたので、ぜひ楽しんでいただければと思います。よろしくお願いします。

ラクシャ役 高森奈津美さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
高森：子どもの頃からゲームが好きだったのですが、今回初めてコンシューマーのRPG作品に参加することができてとてもうれしいです。昔から知っていた『イース』という作品で、まさか自分が演じることができる時が来るなんて……と、不思議な気持ちです（笑）。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
高森：ラクシャはこの作品における振り回され役にして説明役という、なかなかおもしろい女の子です。アドルをはじめとするラクシャ以外のキャラクターは、それぞれにすでに信念のようなものを持っているのですが、ラクシャはまだそれを持っていないので、この作品で一番精神的に成長するのは彼女なんじゃないかと思いましたね。



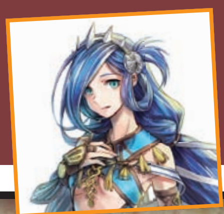
●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
高森：シリーズファンの方も、これから始めたいと思っている方も楽しめるものになっているかと思います。私も多分……いや絶対すごくプレイしてしまうと思います（笑）。ラクシャは序盤からみなさんと一緒に冒険できるキャラなので、いろんな所に連れて行ってもらえるとうれしいです。発売されたあかつきには、ぜひ一緒に楽しみましょう！

ダーナ役 大西沙織さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
大西：今回のお話をいただいたときに、私自身、アクションRPGのヒロインを演じさせていただくのが初めてでしたので、キャラクターの資料やシナリオをいただいた際はものすごくワクワクしました。今まさに収録を終えたところなのですが、充実感に溢れています。楽しかったです！（笑）

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
大西：イラストを最初に拝見させていただいた時は、ちょっとお姉さんっぽい感じなのかなと思っていましたが、いざやってみると等身大の女の子だなと思いました。そんな可愛い所もありつつ、しっかりと演じ分けをしないといけない所もあるので、そこは気をつけて演じさせていただきました。



サハド役 木内秀信さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
木内：とてもやりがいのある役でした。セリフ量が多いというのもあったのですが、キャラクターがとても豪快で、常に「ガハハ」と笑っているような男だったので、運動量が多く、良い汗かきました（笑）。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
木内：下品で無骨なところもあるのですが、心優しく、ピュアなところも持ち合わせている魅力的なキャラだと思います。いかにも漁師らしい漢なのですが、僕の地元の友人にも漁師がいるので、そのイメージを参考にしつつ収録に臨みました（笑）。

シリーズに触れる方でも楽しめると思いますので、ぜひぜひよろしくお願いいたします。

ドギ役 三宅健太さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
三宅：ドギ自身が熱い好漢ということで、非常に熱を帯びた収録になりました。なかなか爽快な気分です（笑）。僕もPCエンジンの『イースⅢ』をよくプレイしていたので、まさか自分がシリーズに参加することができるとは！　と心が踊りました。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
三宅：ドギに関してはもうファンのみなさんの方がよくご存知かとは思います。まさしくアドルとの友情というか腐れ縁ですよね。これだけ長い間培ってきたこの関係を、どのように声で表現するか、最初は不安なところもあったのですが、セリフに今までの歴史が凝縮されていたので、いざ収録に臨むとドギが降りてきたというか、すごくアドルを近くに感じましたね。



●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
三宅：長く続いているシリーズだから敷居が高いのではと思っている方もいるかと思いますが、そこは『イース』ですから！　すごく間口が広い作品になっているかと思います。たくさんの方に楽しんでいただけたらうれしいです。よろしくお願いします。

バルバロス役 掛川裕彦さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
掛川：ドシッとした感じでいてくれるキャラなので、やりごたえがありました。とにかくオタオタだけはしたくないなと気をつけて収録に臨みました。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
掛川：バルバロスは船長ということで、まさしくみんなのお父さんというイメージですね。収録中も自分自身に対してしっかりしなければと言い聞かせながら、頼りがいのあるキャラを作り上げていきました。



●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
掛川：今回もとても素敵な作品となっていますし、私はもちろんですが、キャスト陣のみなさんもとても頑張って収録していると思います。不思議な島での不思議な冒険がテーマということですが、そこにちょっと捻りも入っていると思います。楽しみにしていてください。よろしくお願いします。

次号以降もキャラが追加され次第コメントをお届けしていくぞ1



●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
木内：4年越しの新作ということで、お待ちいただいていたファンの方も、初めてこのシリーズに興味を持っていただいた方にも、とっても楽しめる作品になっていますので、期待は裏切らないと思います。サハドは屈強に見えますが、実はビビりで、愛嬌のあるキャラクターです。ぜひパーティーとして使ってあげてください。よろしくお願いします！

リコッタ役 山本希望さん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
山本：今までリコッタのような無人島で生活する女の子を演じることがあまりなかったので、とても楽しかったです！私自身にもワイルドな部分があるのでリコッタには親近感を持ちながら演じることができました。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
山本：リコッタの覚えた言葉をすぐ使いたがるところや、反射で行動するところがすごく私と似ていると思ったので、とても演じやすかったです。印象に残っているシーンとしては、彼女は家族に憧れている女の子なので、それを仲間に告白するシーンはすごく感情が入りました。



●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
山本：長い間続いている人気シリーズに参加させていただき、光栄に思います。どうやらリコッタは結構強いという噂なので、ぜひ可愛がってあげてください。よろしくお願いします！

ヒュンメル役 KENNさん



●収録を終えた感想をお聞かせください。
KENN：まずはなんと言っても、30年近くの歴史を持つ『イース』シリーズに参加させて頂くことが出来て、とても光栄です。自分は、クールでカッコいいヒュンメルという役を演じさせて頂いたのですが、収録の日までワクワクしながら台本を読んでいました。収録は楽しくて、あっという間に感じました。

●演じられたキャラクターについてお聞かせください。
KENN：ヒュンメルはクールな性格で、アドルたちとの出会いでも「あれ、こいつもしかしたら敵なのかな……？」という雰囲気を醸しだしている感じがします。ですが本人はすごくストイックというか真面目で、自分の任務を遂行する為にただひたすら突き進んでいます。一見、とっつきづらいところがありますが、たまに意外な表情を見せてくれるので、ギャップも面白いキャラクターかなと思います。



●ファンの皆さんにメッセージをお願いします。
KENN：『イース』といえばもちろんアクションやゲーム性、ストーリーが楽しい作品ですが、サウンドの方も個人的には楽しみだと思っています。今までのファンの方はもちろんですが、この作品から

『英雄伝説 空の軌跡 the 3rd Evolution』の7月14日に決定!!



■タイトル　：英雄伝説 空の軌跡 the 3rd Evolution
■発売日　：2016年7月14日
■ジャンル　：ストーリー RPG
■対応機種　：PlayStation® Vita
■プレイ人数 ：1人
■CEROレーティング：審査予定
■価格
　通常版（PlayStation®Vitaカード版）：5,800円（税別）
　通常版（ダウンロード版）：4,800円（税別）
　限定版：8,800円（税別）
　空の軌跡 三昧セット：価格未定
■発売　：角川ゲームス
■原作・音楽 ：日本ファルコム
■企画・監修 ：キャラアニ、日本ファルコム
■開発　：パオン・ディーピー

『空の軌跡Evolution』シリーズ3作目にして、後の『零／碧』、『閃』シリーズへの大きな伏線も数多く散りばめられた『英雄伝説 空の軌跡 the 3rd Evolution』。その発売日が2016年7月14日に決定した！　今作は七耀教会の星杯騎士ケビン・グラハムを主人公に、「影の国」と呼ばれる異空間で課される試練を仲間とともに乗り越えていく中、様々なキャラクターの背景や、事件の真相が描かれていくといったストーリーとなっている。もちろん『軌跡Evolution』シリーズということで、メインストーリーのフルボイス化に楽曲のフルアレンジは期待通りのデキになっていること間違いなしだ！

『空の軌跡Evolution』シリーズ最終作 発売日が2016年



『軌跡』シリーズの伏線が数多く眠る『空の軌跡 the 3rd Evolution』は今プレイするからこそおもしろい！



リファインされ、より美麗なグラフィックとなった異世界「影の国」そこでケビンたちを待ち受けるものとは……!?

みんな集まれ!ファルコム学園



新久保だいすけ

夜間パトロール



パニック



先生の予定



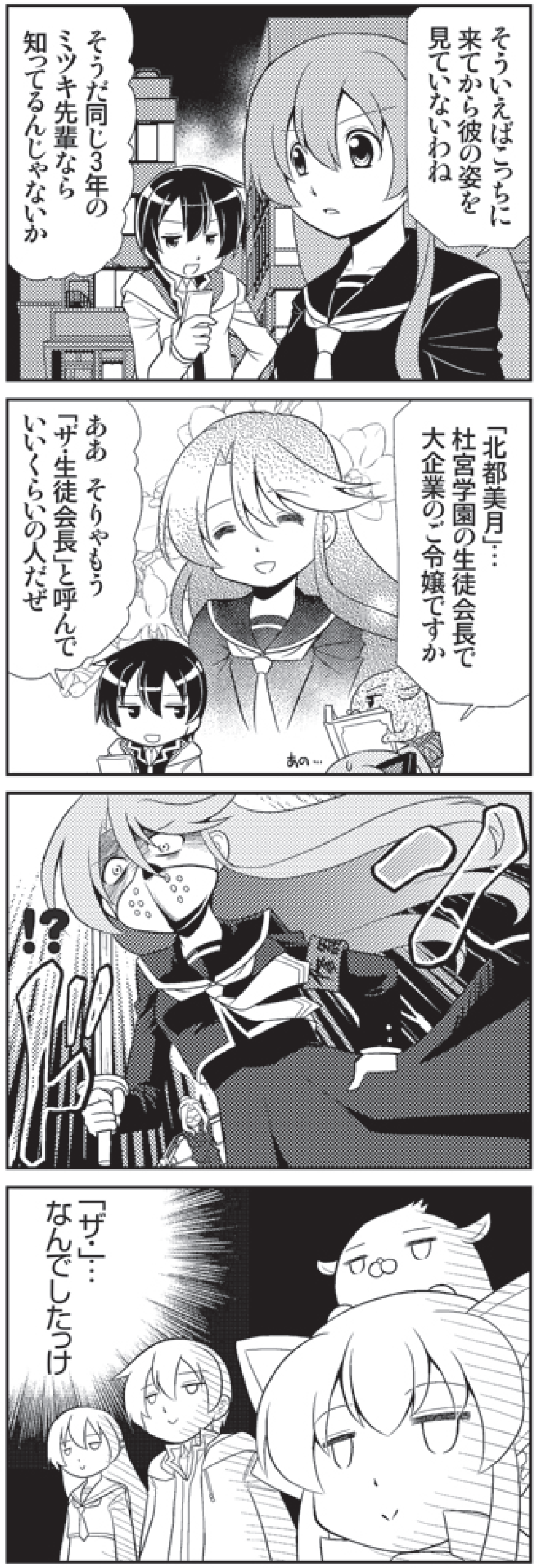
不良色々



ある意味硬派



THE SUKEBAN



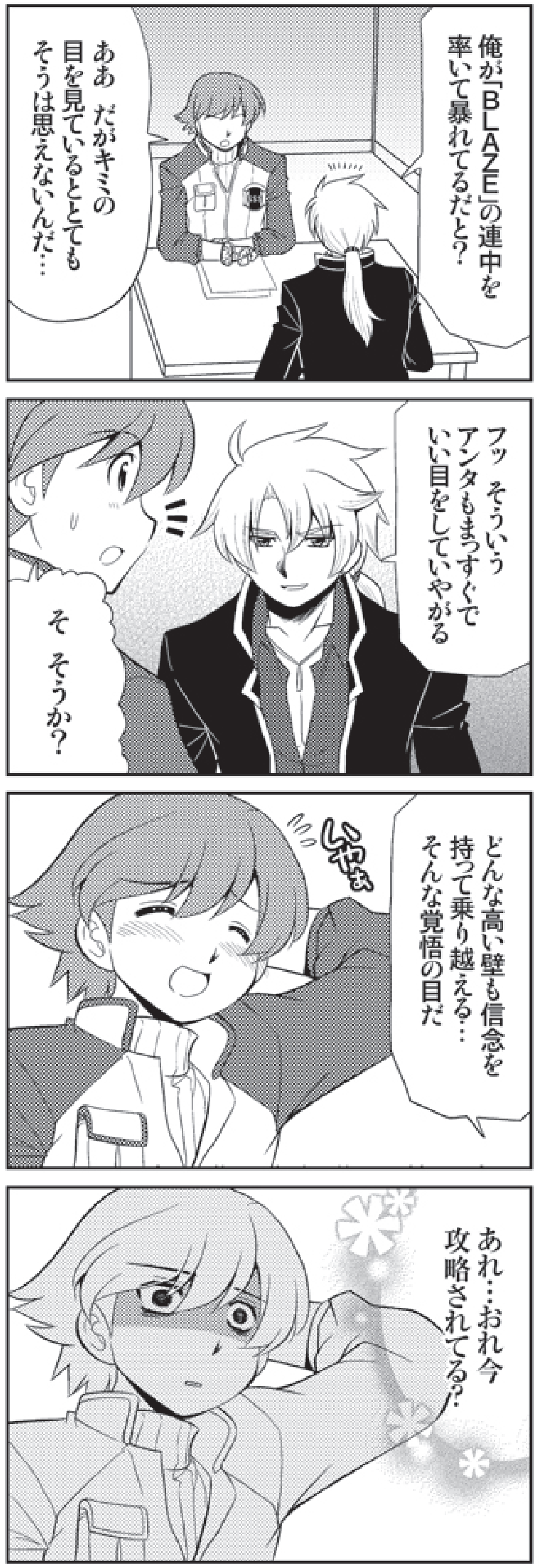
!?



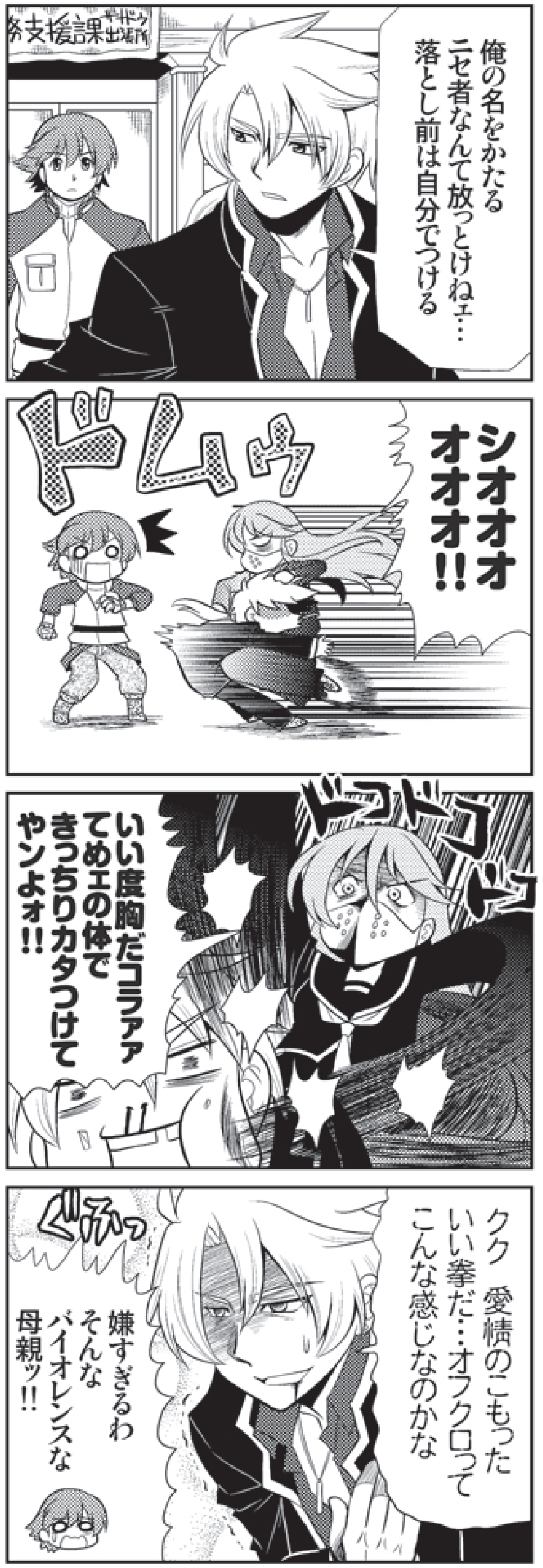
プロの観察眼



攻略王の危機



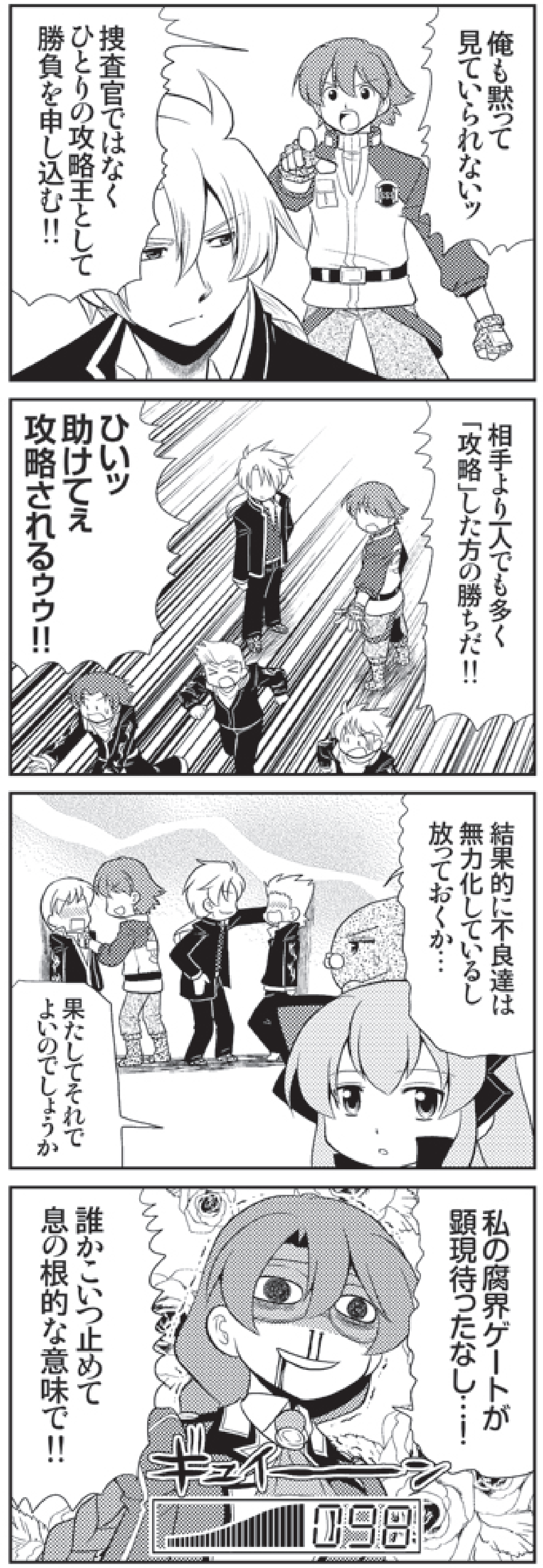
あこがれの愛のムチ



聞きだそう



攻略王参戦



シオさん!



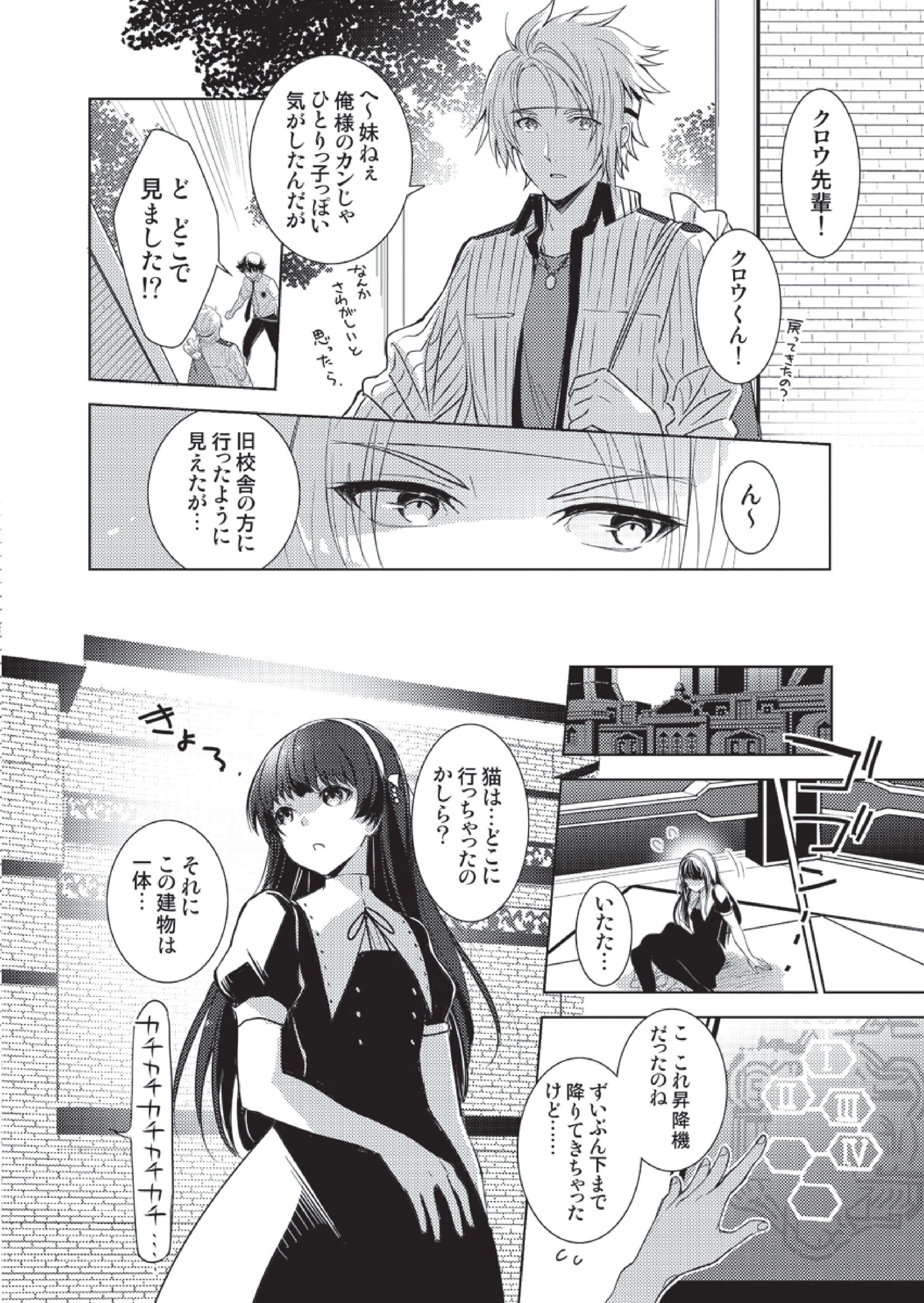
嘘つきと正直者

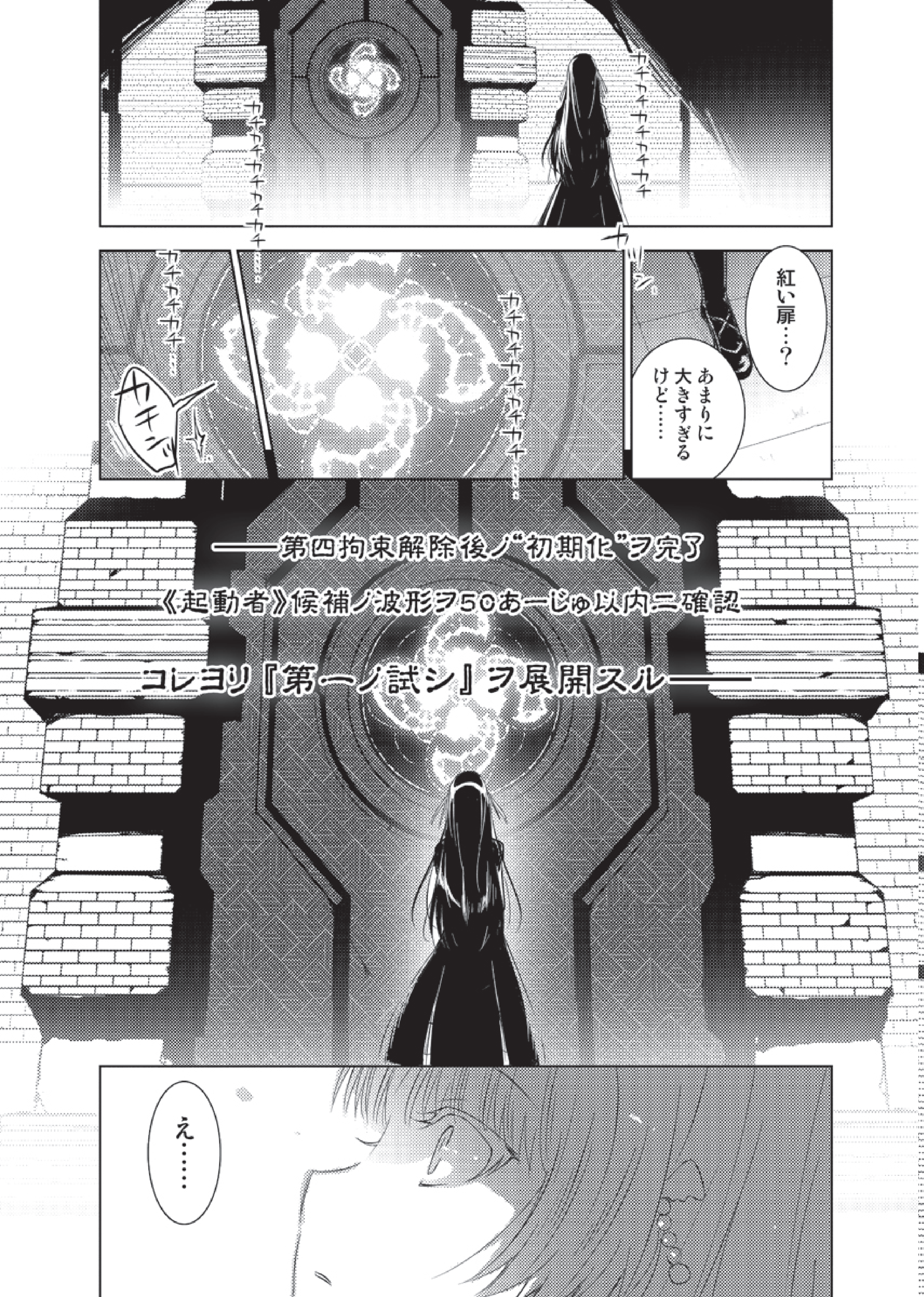


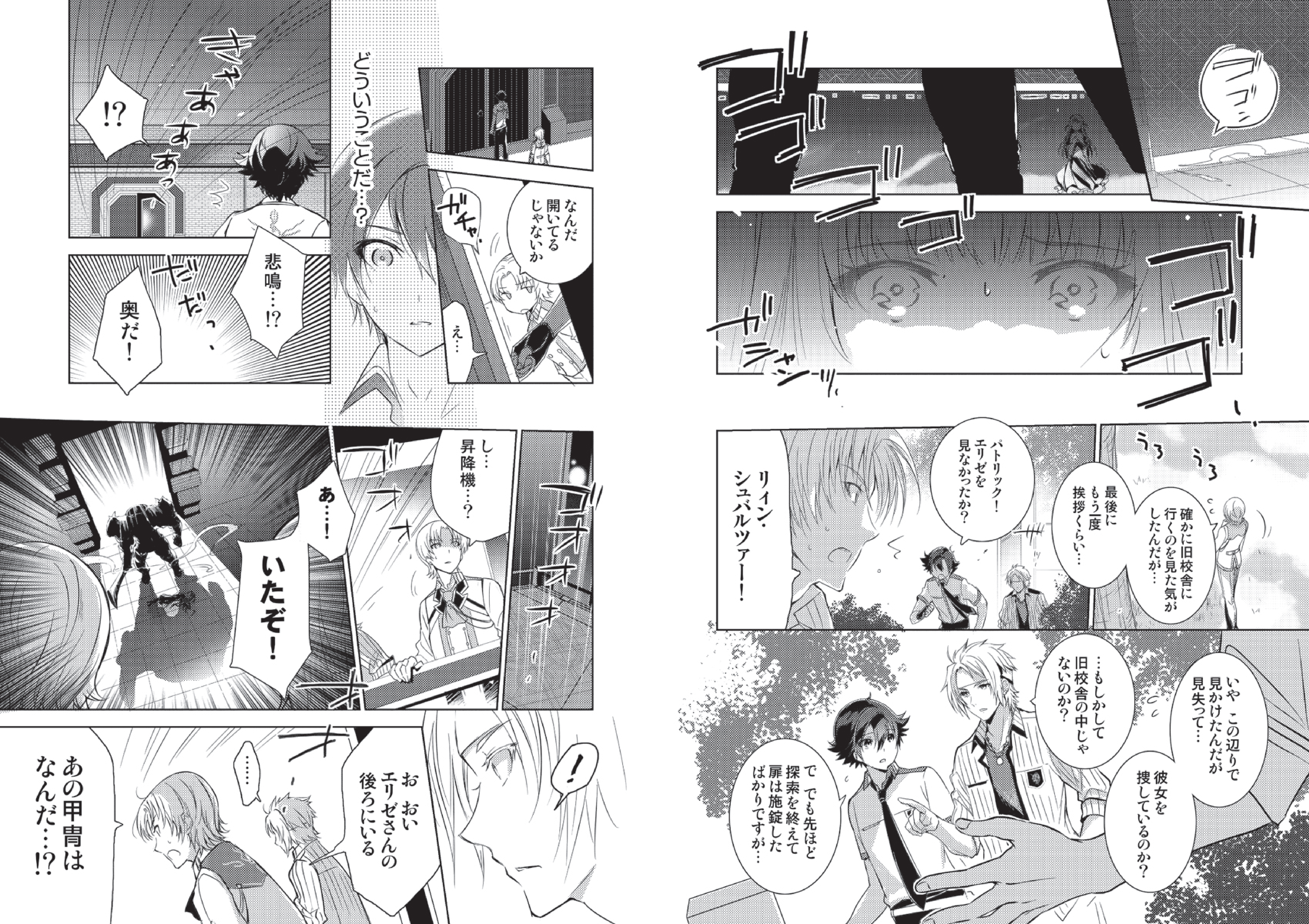
真の攻略王




THE LEGEND OF HEROES
閃の軌跡
原作:日本ファルコム(『英雄伝説 閃の軌跡』)
脚本:恵村まお
漫画:さがら梨々
第18話
えっ リィン君の妹さんが…!?
こちらでは見かけていないな
そうですか……
大変…!
生徒会のほうでも連絡網を回してみるね!
あの聖アストライアの生徒で流れるようなストレートの黒髪か…
ずいっ
リィン君の妹だしさぞかし淑やかで器量のよい花のような美少女なのだろう
で?
屋上
勝手に話を聞いちゃったのは謝るけど早く追いかけなさいってば!
なんで皆いるんだ!?
見つけた者が娶るというルールでよかったかな?
みんなにも心配されてしまったし…早く探さないと
もう!アンちゃん!
聖アストライア…やっぱりさっきのは見間違いじゃなかったのか


クロウ先輩！
クロウくん！
戻ってきたの？
へ～妹ねぇ
俺様のカンじゃ
ひとりっ子っぽい
気がしたんだが
なんか さわがしいと 思ったら、
ど どこで見ました!?
ん～
旧校舎の方に行ったように見えたが…
ゴゴン
いたた…
こ これ昇降機だったのね
ずいぶん下まで降りてきちゃったけど……
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
きょろ
猫は…どこに行っちゃったのかしら？
それに この建物は 一体…
カチカチカチカチカチ…


カチカチカチカチカチカチ
カチカチカチカチカチカチ…
ガッ
紅い扉…？
あまりに大きすぎるけど……
カチカチカチカチカチカチ…
カチッ
──第四拘束解除後ノ"初期化"ヲ完了
《起動者》候補ノ波形ヲ50あーじゅ以内ニ確認
コレヨリ『第一ノ試シ』ヲ展開スル──
え……


ゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴゴ
ガシャン
うろ うろ
確かに旧校舎に行くのを見た気がしたんだが…
最後にもう一度挨拶くらい…
パトリック！エリゼを見なかったか？
リィン・シュバルツァー！
いや この辺りで見かけたんだが見失って…
彼女を捜しているのか？
…もしかして旧校舎の中じゃないのか？
で でも先ほど探索を終えて扉は施錠したばかりですが…
なんだ開いてるじゃないか
ガチャ
え…
どういうことだ…？
きゃあああっ
!?
悲鳴…!?
だだっ
奥だ！
し…昇降機…？
ゴオオオオ
あ…！
いたぞ！
！
おおい エリゼさんの後ろにいる
……
あの甲冑はなんだ…!?


ズッ
!!
エリゼぇぇっ!!
なっ…!?
ひっ
ひとりで
危険だ!!
お　おい…?
ピタ…
!
待て!
リィン・
シュバルツ…
だっ
グッ
ゴゴゴゴゴ
ギッ


ひっ…!?
髪が……それに紅い瞳…?
こ……こいつは一体…!?
なっ…なんなんだあの力とスピードは…!


ヨロ…
ウグッ…
……ッ
ーアリサ・R
ルーレ市から
やってきたわ
すごいや
リィン!
いや
みんなの力を
あわせた
A班全員の
"成果"だよー
ー未熟者同士
なのは
お互い様と
いうわけか
すまなかった
昨日のことも含め
君にはちゃんと
謝らせてくれ…
礼を言われる
ことか?
お前の役に
立ったとしたら
何よりだー

ど
どうした
んだ…!?
"力"を…
抑えようと
してんのか…?
スウゥゥ
ぐっ…
はあ
はあ
はあ
こ…これ以上…
呑み込まれて
たまるか……
勝ち目はない…
でもやるしかない…
あの
冬の日を…
自分自身を
取り戻すためにも!
加勢するぜ
後輩ッ!


俺がこいつを引き付ける…二人がかりならいけるはずだ！
はいっ!!
二ノ型 疾風!!!
……
ったく…
こういう修羅場は半年前に卒業してるっつーのに……
はは…助かりました…
先輩もARCUSが使えるんですね
おう お前らVII組のための試験導入に参加してな
エリゼ…！大丈夫か!?
どこか痛む所はないか!?
トワやジョルジュゼリカたちとはその時からの付き合いってわけだ
にい…さま…
ええ…地響きに足を取られてしまっただけで…
それに…兄様が守ってくれましたから……


あの日みたいに…ううん
あの日とは違う形で…
エリゼ…
ああ…何とか乗り越えられたよ
ふふよかった…
リィン大丈夫!?
っとどうやら揃ってご到着のようだな
ふぅん…《赤い扉》に巨大な甲冑か…
こいつは…暗黒時代の魔導の産物のようだが…
扉から不思議な〃声〃?
はい
『第四拘束』『起動者』『第一の試し』
そういった…断片的な言葉しか覚えていないんですが…


やっぱり〃何か〃がこの遺跡にはあるんでしょうか
まぁその可能性は高いわね
ここ…今後はもう入らない方がいいかもね
いい訓練の場になると思ったんだけど
謎の昇降機に加えて今回みたいな異常が起きたら担任教官としてはさすがに…
ええ!?ここまで調査したのに!?
わたしは反対実戦のカンを維持するには最適な場所
ああ…それにチームの連携を養うのにも向いている
俺も調査は続けたいです
わっ…わかったわかったわ
…やれやれ
学院長にも報告しておくから今日はもう上がりなさい
……
キッ
フイッ
……


この旧校舎で何度か感じた鼓動…
この建物には〝何か〟がある
身体の方は大丈夫なのか？
それが判明しないまま調査が打ち切りにならないようにしたい…
あ…！
パトリック…
クロウ…先輩…
ドキ
パトリックさっきは妹を見てくれて助かった
改めてお礼を言わせてくれ


…そ
その
さっきの俺の〝力〟は…
野暮なことは言いっこなしだぜ
フン 僕もみだりに広めるつもりはない
貴様とはきちんと決着をつけたいからな
あ……
すー…
と ところで一点聞いておきたいんだが…
コホン
？
今週末の夏至祭で行われる園遊会に僕も出席するつもりなんだが
その…
エリゼさんは出席されるのか…
ん…？ ああ 貴族や皇族の方々が集まる…？
もじ もじ
聞いてたりは…
え


ゴゴゴ
なんでそんな事を訊く必要があるんだ…?
つ…!!
ゴゴゴ
♪
おーおー青春だねぇ〜
たっ他意はない！ちょっと気になっただけだ！
し失敬する！
ダッ
あ…
クロウ先輩も…助太刀ありがとうございました
クク
50ミラ分の働きはできたかよ?
…ははそうですね


【7月特別実習】
A班
リィン・ラウラ・フィー
マキアス・エリオット
(実習地:帝都ヘイムダル)
B班
アリサ・エマ
ユーシス・ガイウス
(実習地:帝都ヘイムダル)
特別実習前日 夜
リィンの部屋——
まさか次の実習先は全員が帝都とはな
僕とエリオットにとってはホームグラウンドでもあるな
帝都か…妹の女学院の場所だけは聞いているけど
そういえばエリゼちゃん無事でよかったよね
でもリィンってかなりのシスコンだったんだね
みんなでエリゼちゃんを駅で見送った時なんか…
——兄様
やっぱり私納得いきません
ザワ
ザワ



家督を継がない事も
そのためにこの士官学院に入学したという事も
ザワ
ザワ
そしてそれ以上に兄様はまだ迷って…自分の道を見失っている——
そうではありませんか？
……
ああ…そうだな
だが〝今回〟は自分自身を取り戻すことが出来た
たぶん この学院に入ってから少しずつ前に進めているからだと思う
俺なりのペースで…みんなと一緒に協力しながら



まもなく2番ホームに帝都行きの旅客列車が到着します
父さんや母さん もちろんエリゼにも納得してもらえる答えを出すつもりだ
だから…歯がゆいかもしれないけど しばらく見守っていてほしい
あ……
ぽんっ
!
なで
なで
パァァ…
近いんだし すぐにまた会う機会はあるさ
話の続きはその時すればいい
兄様…！


わかりました
絶対ですからね……！
まぁエリゼちゃんの方はブラコン以上って感じだったけど…
はぁ…
ヒソ ヒソ
ここで頭撫でるとか…
は反則気味ですね…
そうか？別に甘えてくるわけでもないし
俺に対してキツイ所もあるし
まぁ仲は悪くないと思うけど
…うわぁ自覚ないんだ…
自覚がないぞあれは
自覚がない


そ、そういえば…彼女は15歳だけ貴族の人って16歳が社交界デビューって聞いたけど
ああ あいつも来年社交界入りをするはずだ
いずれ良い相手に巡り合えればと兄貴としては思ってるよ
生半可なヤツじゃ絶対に認めてやらないけどな
怖…
それにしても…
カサ
先々月の班分けといい俺…
なんかダシに使われている気がするな
フッ 先月の班分けからお前だけが移るパターンか
教官にはごまかされるし……
しかし気になるのは彼女たちの件だな
ラウラとフィーか…


う～ん 何とか できない かなぁ？
僕たちの時と違って 彼女たちはお互い 弁えている
先月の実習に したって良い結果 とは言えなかったが トラブルは無かった からな
片や 武門として知られる 由緒正しい 貴族の嫡女
片や 猟兵団に 拾われて育った 戦場で生きてきた 少女…
アリサたちによれば あのふたりはお互いの 存在を〝戸惑っている〟 みたいだな
うん 別に嫌って いるわけじゃなくて 納得がいって いないというか…
お互い全く 違う世界で 育ったわけか
ああ もしかしたら そこに――
あっ!!
ばっ
リィン 貸して！ ラジオ貸して！ 貸してくれ！
ば
カチッ
――こんばんは ミスティです
帝都近郊 《トリスタ放送》より 7月18日 夜9時 のお知らせです
ああ 《アーベントタイム》の 時間だったか
金曜日 だったな
ひと月遅れの 帝都の夏至祭
あれ？ もしかしてマキアス ミスティさんの ステッカー狙って 投稿してる？
そ それは……！
何といっても 皇族の方々が 参加される 初日の行事や イベントが……
そこは 同意見だな
やっぱり 素敵だなー ミスティさん の声
それに投稿が なかなか採用 されないほど 人気なのもわかる 番組内容だ
話が 脱線したな…
特別実習1日目 朝 トリスタ駅前
あ……


おはよう フィーちゃん
エーデル部長
フフ 見送りに来ちゃった
あれ？フィーの部活の部長さん？
そうか彼女は園芸部だったな
最近ちょっと元気がなかったみたいだけど…
フィーちゃんが花壇に植えた種 特別実習から帰る頃にはきっと咲いてるから…
楽しみに頑張ってきてね
……ん
フフ 気をつけていってらっしゃい♥
息
できない
むんぎゅ
……ああ 全力で務めるつもりだ


帝都・ヘイムダル中央駅
——次は終点 帝都ヘイムダルでございます
どなた様もお忘れ物のないよう……
ふむ さすがにあっという間だったな
別にトリスタから日帰りでもいいような
そ それを言ったらおしまいだろう
今回は宿泊先も聞かされていないな
サラ教官が言うには帝都駅に着いたら〝案内人〟が待ってるって…
ようこそ 帝都ヘイムダルへ …時間通りですね
あっ…貴女は！
クレア大尉！
ふふ 3ケ月ぶりですね


この人が リィンたちが 言っていた…
フン 泣く子も黙る 《鉄道憲兵隊(T・M・P)》の 将校殿か
――やぁ 丁度よかった
え……!?
マキアスの父 カール・レーグニッツだ
帝都庁の 長官にして ヘイムダル知事を 務めている
よろしく頼むよ 士官学院 Ⅶ組の諸君――
と 父さん…!?
夏至祭で賑わう帝都…Ⅶ組の新たな実習とは!?

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！



カード型USBメモリー
3,348円(税込)



ワイヤレス スピーカー
4,968円(税込)



トートバックS：1,836円(税込)

東京ザナドゥ 新作グッズ

新生活を『東ザナ』で飾ろう!

爽快なアクションと群像劇で多くのファンを魅了している日本ファルコム最新作『東京ザナドゥ』から新作のグッズが続々登場！　キュートなSDキャラがプリントされたトートバッグやカードサイズのUSBメモリー、PSVitaも収納できるマイクロファイバーポーチなど、春のお出かけや新生活にもピッタリなグッズをゲットしよう。詳細とお買い求めは通販サイト「オフィシャル倶楽部MAG」から。



マグカップ
1,620円（税込）



マイクロファイバーポーチ
1,620円（税込）

『東京ザナドゥ』SAKURAまつり仕様テーマ配信

Vitaの画面も春めく装いに!

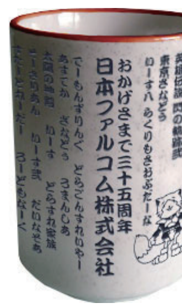
10,000本限定お買い得パッケージ『東京ザナドゥ SAKURAまつりパッケージ』の発売を記念して、SAKURAまつり仕様のPS Vitaテーマ無料配信が決定！　PSVitaのスタート画面やアイコンのカスタマイズに加えて、ホーム画面のBGMがコウの幼馴染・シオリをイメージしたボーカル曲「all is a lie」に変わる特別仕様だ。配信期間は3月24日～4月6日まで、PSストアにて。



ファルコム35周年記念湯呑

あのタイトルがずらりと勢揃い!

2016年3月9日で創立35周年を迎えた日本ファルコム！　アニバーサリーを記念したグッズの第一弾として、歴代タイトルが描かれた特製の湯呑茶碗が登場。お気に入りのタイトルが入った湯呑は飾るも良し、もちろん使っても良し。完全予約受注生産品なので、ゲットしたいファンの皆様は予約を忘れずに！　予約期間は4月10日まで、2160円（税込）。ファルコム通販限定。







いよいよ「ファン感謝祭」も目前！ 3月配信回をチェック！

**ようやく寒さも和らいできて、春の訪れを実感できるようになってきた3月。新年度間近ということもあり、ライフスタイルが変わるという人も多いはず。でも『そららじ』は変わらずお届けされています！
今回は2月のバレンタイン企画を受け、ホワイトデー企画がコーナーの中心に、そして、4月24日にはいよいよ『ファン感謝祭』が行われるということで、そのイベント内で行われるファン参加型の企画に関するおたより募集の案内も行われています。まだ投稿は間に合うので、渾身の1ネタを投稿してみてはいかが!?　そして神田さんはイベントまでに『空SC Evo』をクリアできるのか……こちらも注目です！**



みんな解けるか?! ファルコム検定

毎回『空の軌跡』に関するクイズを出題し、リスナーが“あえてボケる”という、検定とは名ばかりの大喜利コーナー。オリビエの用法容量にはくれぐれもご注意を！



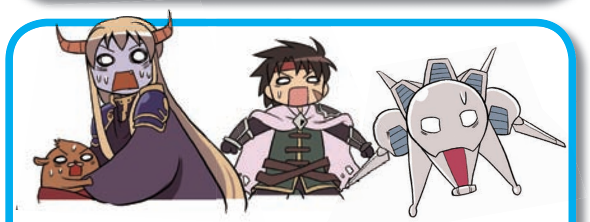
ファルコム ミュージックライブラリー

『めんどくさいラジオ』でも大人気だったこのコーナーは『そららじ』でも継続！　ファルコム作品の魅力溢れるBGMを毎回たっぷりと聴くことができるコーナーだ！



言葉の小箱

**『そららじ』の看板コーナーになりそうなこの企画。エステルとヨシュアに自分が考えた掛け合いを喋ってもらえるという、夢のようなコーナーになっているぞ！
　投稿をする時は、どちらのセリフか分かるように書くのが採用率アップのポイント！**



あ、あんですって～？！ ファルコムニュース

ファルコム作品の最新情報をお届けするニュースコーナー。思いがけないニュースを聴くことができるかも？

エステル＆ヨシュアのファルコム空の軌跡ラジオ
■配信日　毎月2回（金曜日）更新　ラジオ公式ホームページ、日本ファルコムYoutubeチャンネル、ランティスラジオにて公表配信中
■公式ホームページ　http://www.sora-evo.com/radio/



緊急速報!

山下憲一×さがら梨々

（『みんな集まれ！ファルコム学園』脚本家）　（『閃の軌跡』コミカライズ）

ファルマガ連載企画進行中!!

昨年発売された『東京ザナドゥ』の劇中アニメにして、『閃の軌跡』のスピンオフ（？）作品の『魔法少女まじかるアリサ』が、アニメ脚本家の山下憲一さんと、本誌で『閃の軌跡』を連載中のさがら梨々先生の強力タッグで現在鋭意企画進行中です！　続報は次号を待て！

★無料漫画サイト「コミッククリア」にて『英雄伝説 空の軌跡SC』を連載中の啄木鳥しんき先生が、執筆のこぼれ話をお届けしていきます♪



無料漫画サイト コミッククリア
http://www.famitsu.com/comic_clear/

『英雄伝説 空の軌跡SC』単行本1巻～2巻（KADOKAWA刊）

大好評発売中！

『閃の軌跡Ⅱ』に同梱された
ドラマCDシナリオが本誌初登場！

英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ
〜辺境の里アルスター〜



2010年に発売され、ドラマCDにもなった啄木鳥しんき先生のコミックス『英雄伝説零の軌跡 プレストーリー -審判の指環-』。そこに登場したカイとティーリアの兄妹が再び登場する本ドラマCD。エステルとヨシュアが訪れた帝国の辺境にある里・アルスターを、リィンたちも訪れるという、物語の連なりを感じさせる1枚になっているぞ。

■閃の軌跡Ⅱ・同梱ドラマＣＤ
「外伝〜辺境の里アルスター〜」

【キャスト】
リィン
アリサ
エリオット
ラウラ
マキアス
エマ
ユーシス
フィー
ガイウス
ミリアム
トワ
ヴァリマール
ティーリア
カイ
町長
トヴァル
アルティナ
猟兵（A〜I）

■タイトルコール

リィン 「ドラマCD、英雄伝説・閃の軌跡Ⅱ。外伝、辺境の里アルスター」

■カレイジャス・ブリッジ（朝）

リィンN 「飛行巡洋艦《カレイジャス》を託された俺達は、オリヴァルド皇子が集めた各地の依頼をこなしながら、帝国東部を飛び回り、トールズ士官学院奪還を目指していた。そんな中、内戦で運搬が滞っている物資や手紙を届けて欲しいという皇子直々の依頼が舞い込み、辺境にあるアルスターという町に降り立った」

カレイジャスを降りようとしているⅦ組一同を見送るトワ。

トワ 「みんな、忘れ物はない？」

リィン 「はい、問題ありません。トワ会長」

アリサ「それにしても、こんな辺境での依頼は初めてね」

ラウラ「ああ、この辺りに正規軍の重要拠点はないゆえ、領邦軍が事を起こすこともないからな」

トワ「うん、ラウラちゃんの言う通り、内戦の直接的な被害があるわけじゃないんだけど……今は帝都に近い地域でも、物流が滞っているような状態だから……」

マキアス「なるほど、辺境では、その影響が顕著というわけですね」

トワ「そうなの。そんなアルスターの人達の力になってあげられるのは、きっとみんなだけだから、よろしくね」

フィー「ん。任せて」

エリオット「届けるだけって言っても、責任重大だね」

エマ「ええ。物資の他に、手紙もたくさんありましたから……この依頼をこなすことで、内戦で離ればなれになった人達の橋渡しになれると思います」

ガイウス「それに、滅多に来ない場所に来てこそ、帝国東部の隅々まで現状を把握できるというものだろう。着いたら、少し見て回るのもいいかもしれないな」

周囲が気負っている中、ひとりわくわくしているミリアム。

ミリアム「ガイウスの意見にさんせー！　ニシシ、さすがにこの町には、任務でも来たことがないから、楽しみだよー」

ユーシス「遊びじゃないんだ、はしゃぐな」

トワ「届ける物はクルーのみんなで降ろしてあるし、どこに運べばいいかは、荷物ごとに書いてあるからね」

リィン「わかりました」

トワ「本当はサラ教官が用事でカレイジャスを降りてる時だから、私がついて行って手伝えたらいいんだけど……」

リィン「ここに来るまでの色んな手配をやってくれたんですから、あとは俺達に任せてください」

トワ「ありがとう。じゃあ、せめて目一杯お見送りするね」

リィン「ありがとうございます。――みんな、行こうか」

トワ「いってらっしゃいっ」

■アルスター・教会前（昼）

リィンN「こうして俺達は、アルスターの町に足を踏み入れた。出迎えてくれた町長と挨拶を交わした後、男子は物資の班、女子は手紙の班と分かれ、指定された町の各所へと届け物をして回ることになった」

教会への届け物が終わり、出てくる物資班。

【SE】教会の扉が閉まる音

リィン「ガイウス。教会への届け物は、あれで全部だったんだよな？」

ガイウス「ああ、最終確認もしたから問題ない。次へ行こう」

マキアス「残っているのは、雑貨店と工房だな。（地図を開いて）地図によると、ここから近いのは……」

辺りを見渡していて、ふと気づくエリオット。

エリオット「あれ？」

マキアス「ん？　どうした、エリオット」

エリオット「他の住宅に比べて立派な家がそこにあるなって。ほら」

エリオットが、周りと比べると比較的立派な住宅を指さす。

ガイウス「ふむ、大きな屋敷だが……中に人の気配を感じないな」

ユーシス「しかし管理はされているようだ。おそらく別荘だろう」

エリオット「辺境の町に別荘かぁ……何か特別な理由でここを選んだのかな？」

ユーシス「ふむ……」

少し離れたところから、手紙班が物資班を見つける。

アリサoff「あ、見つけた。（声を張り上げ）みんなー」

駆け寄ってくる手紙班。

リィン「アリサ、みんな。そっちはもう終わったのか？」

アリサ「今終わったわ。そっちはまだ途中みたいね？」

……あのね、さっき町長さんが、わざわざ様子を見に来てくれて、食事に招待してくれたの」

リィン「え？　あ、そうか……もう昼時か」

ユーシス「どうする？　断る理由はないと思うが」

リィン「ああ、一旦休憩にして、お言葉に甘えさせてもらおう」

■アルスター・町長宅（昼）

招かれ、町長と食事し、食後のお茶を飲んでいるⅦ組。

【SE】ティーカップの音

町長「この度は、はるばるご苦労じゃった。改めて礼を言わせてくれ」

リィン「いえ、こちらこそ、食事のご招待ありがとうございました。とてもおいしかったです」

エマ「今いただいているハーブティーも、おいしいです。すごくいい香り……」

町長「ふふ、じゃろう？　この町には可愛い花売りの子がおっての、これはその子が採ってきてくれたハーブで作ったんじゃ。ああ実は、その花売りがこの後――」

【SE】扉を開く音

ティーリア「こんにちは、町長さん！」

町長「おお、待っていたよティーリア」

フィー「この子が……花売りの子？」

ティーリア「お待たせしちゃってごめんなさい。（気づいて）あ……」

Ⅶ組のほうを見るティーリア。

ティーリア「町長さん。この人達が？」

町長「ああ、そうじゃ。さ、ご挨拶しておくれ」

ティーリア「はいっ。えっと……初めまして、わたし、ティーリアって言います。今日は町に色んなものを届けてくれて、ありがとうございます！　あの、これ」

一本のお花をリィンに差し出すティーリア。

リィン「え？　花？　もらっていいのかい？」

ティーリア「はい、皆さんへのお礼です」

リィン「ありがとう」

全員に花を渡していくティーリア。

ティーリア「はい、他の皆さんも」

アリサ「わあ、ありがとう。とっても綺麗だわ」

ティーリア「喜んでもらえて嬉しいです。はい、お兄さんも受け取ってください」

ユーシス「いただこう」

ユーシスの外見に見惚れるティーリア。

ティーリア「あ……」

ユーシス「む？」

町長「おや、どうかしたかね？　ティーリア」

ユーシス「俺の顔に何かついているか？」

ティーリア「ご、ごめんなさい。そういうわけじゃなくて。その……皆さん、とってもお花が似合うなぁって、お姉さん達はとっても綺麗だし、お兄さん達はみんなかっこいいし。その、まるで……」

ティーリアが思っていることがわかる町長。

町長「はは、なるほど。お前さんのことだからきっとこう言いたいんじゃろう。『まるで皆、物語に出てくる主人公のようだ』と」

アリサ「しゅ、主人公、ですか？」

町長「ふふ、この子は本が大好きでな。よく色んなことを小説や物語と関連づけては、儂らに語ってくれるんじゃ。特に金髪のおふたりなどは、ティーリアが理想とする小説の中のお姫様や王子様じゃろうて」

リィン「金髪のふたりってことは……」

ミリアム「ニシシ、アリサとユーシスが、お姫様と王子様ってことだねー」

アリサ「（照れ）え、ええ？」

マキアス「アリサは頷けるが、ユーシスか……こんな態度のデカイ王子なんて、僕は認めないぞ」

ユーシス「確かに柄ではないと思うが、貴様に言われると癪だな」

エマ「ふふ、ティーリアちゃんは、お姫様や王子様が出てくる本がお好きなんですか？」

ティーリア「は、はい。でも、それだけじゃなくて、冒険

物とか、伝承とか、本ならなんでも好きで――」

エマ「私も本が好きで、よく読むんですよ」

ぱっと明るくなり、身を乗り出すティーリア。

ティーリア「本当？　最近、何を読みました？」

エマ「『赤い月のロゼ』とか、『闇医者グレン』とか……」

ティーリア「わたしも両方とも読みました。『赤い月のロゼ』は、起こる事件に毎回ドキドキして、続きがすっごく気になったし、『闇医者グレン』はグレンのカタリナへの想いが切なくて……っ」

エマ「ええ、わかりますっ」

リィン「そういえば、委員長は読むだけじゃなくて、自分で書くこともあるんだよな？」

ティーリア、小説家を目指しているため、敏感に反応する。

ティーリア「え？　そうなの！？」

エマ「あ、はい。文芸部の活動で、少しだけ」

アリサ「そういえば、まだ見せてもらったことはないわね。今度見せてよ。本は読むほうだから、評価してあげる」

エマ「ええっ？」

自分でも小説を書いており、展開に悩んでいるティーリア。評価するというアリサの言葉に、自分の小説を読んでみて欲しくなる。

ティーリア「評価……。そ、それって、小説を読んで、アドバイスできるってことですか？」

アリサ「うーん、アドバイスではないけれど、ひとりの読者として感想を伝えさせてもらうってとこかしら」

ティーリア「あの、だったらお願いが……！」

アリサ「え？」

はっと我に返って、躊躇するティーリア。

ティーリア「あ……。や、やっぱり、なんでもないです！」

アリサ「そう……？」

ティーリアたちの様子を、嬉しそうに見ている町長。

町長「ふふ、賑やかじゃのう」

リィン「あ、すみません。すっかり長居してしまって」

町長「いやいや、かまわんよ。むしろ大歓迎じゃ」

少し切ない声色になる町長。

町長「今は完治しておるが、あの子は昔、眼に失明するほどの病を患ってのう」

リィン「え……？」

町長「それ以外でも、何かと苦労している子なんじゃ。あんなふうに楽しそうに本の話をしている姿を見ていると、儂まで嬉しくなる」

リィン「そう、ですか……」

※時間経過

リィンN「しばらくティーリアや町長と語り合ってから、俺達は物資の配送を再開した。少し遅れてしまったけれど、日暮れまでに、全員で最後の届け先である工房へと向かうことができた」

■アルスター・工房前（夕）

【SE】扉を開く音

工房の中に入っていく一同。男性陣は荷物を持っている。

リィン「ここが工房だな。（声を張り上げ）すみませーん」

カイoff「あ、はいっ」

奥から駆けてくるカイ。

カイ「こんにちは。物資を届けに来てくださった皆さんですね。町長から話は聞いています」

幼い子が出てきて驚くⅦ組。

リィン「え……？」

カイ「あれ？　どうかしましたか？」

リィン「あ、いや……その、遅くなってしまって申し訳ない」

カイ「いえ、町長から事前に、皆さんを食事に招待することは聞いていましたから」

エリオット「（小声）この子が、工房の職人なの？」

ユーシス「（小声）……先ほどのティーリアと、大して変

　　　　　わらんように見えるな」

ミリアム「なんだか静かだね？　キミの他に誰もいないの？」

カイ「はい、丁度出払っているんです」

エマ「ひとりで店番なんて、大変ですね」

カイ「いえ、慣れてますから」

マキアス「よくあることなのか……もしかして、君は工房長の息子なのか？」

カイ「え？」

マキアス「あ、いや、一時的でも工房を任されるなら、そうなんじゃないかと思ったんだが……」

マキアスがそう思ったのが、自分が幼いからだと悟るカイ。

カイ「あ……やっぱり、ぼくの歳で驚きますよね。これでも工房務めは長いんです。小さい頃に両親が死んじゃって、それからすぐ雇ってもらったので」

マキアス「あ……！　そ、その、すまない……！」

カイ「いえ、気にしないでください」

自分も拾い子という境遇のため、リィンは同情している。

リィン「……でも、長く勤めていたとしても、君くらいの子が色々任されるには相当頑張らないといけなかったんじゃないか？　すごいな」

カイ「そ、そんなことないです……」

リィン「謙遜しなくていいさ」

カイ「いえ、本当に、目の前のことをやるのが精一杯なんです。一緒に暮らしてる妹を守るためにも、もっとしっかりしなくちゃって、いつも反省してます」

リィン「君も妹がいるのか……」

ティーリアお花を渡しに行ったことを知っているカイ。

カイ「あ、はい。皆さんもう会いましたよね？　実は――」

ちょうど差し入れを持ってくるティーリア。

【SE】扉の開く音

ティーリア「カイお兄ちゃん、差し入れ持ってきたわよ」

カイ「あ、ティーリア」

フィー「ティーリアが妹だったんだ……そういえば、似てるね」

ティーリア「あれ？　皆さん？」

カイ「丁度今、届け物をしてくれたんだ」

ティーリア「そうなんだ。ありがとうございます」

カイ「ぼくからも、改めてお礼を言わせてください」

リィン「いや、役に立てたならよかったよ」

カイ「はい、すごく助かりました。オーブメント関係は特に入ってこなくって困っていたんです」

ティーリア「（少し食いつき）オーブメント？　皆さん、オーブメントを運んできたんですか？」

リィン「え……そ、そうだけど？」

ティーリアが何を期待してるかわかっているので、苦笑するカイ。

カイ「ティーリア……この工房が行うのはせいぜい日用品の販売と修理だから。トビーが運ぶ戦術オーブメントは扱ってないよ」

ティーリア「そ、そっか」

エマ「ふふ、トビーというと『カーネリア』ですね？　ティーリアちゃん」

ティーリア「うん！」

ユーシス「『カーネリア』……この間文庫版が出ていた大衆小説か」

カイ「ティーリアが特に大好きな作品なんです。運び屋のトビーっていうのは、物語の最後に遊撃士になる、アーツが得意な主人公なんです。帝国に、モデルになった人がいるって噂もあるんですよ」

ガイウス「アーツに優れた遊撃士か……トヴァルさんのようだな」

ラウラ「ああ。モデルとなった御仁とやらと、知り合いかもしれぬな」

カイ「え？　あの、もしかして……トヴァルさんと知り合いなんですか？」

リィン「え……？」

その時、遠くから（裏山の頂上くらいから）獣の咆哮が聞こえる。

【SE】幻獣の咆哮

一同「……！」

ティーリア「な、なに？　今の……」

フィー「大型の魔獣だね……もしかして、ここにも幻獣が？」
ガイウス「可能性は高いだろうな。……そう遠くではないようだ」
ユーシス「フン、ほうってはおけんか」
リィン「ああ！」

■アルスター上空（夜）

【SE】幻獣の咆哮
クラウ＝ソラスに乗り、空からアルスターの町を見ろしているアルティナ。
【SE】チリン、という鈴の音
【SE】クラウ＝ソラスの「Ёжёйа」という声
アルティナ「幻獣を山岳地帯に捕捉。灰の起動者(ライザー)と協力者が、対策に乗り出す模様」
【SE】猟兵の足音（off）
アルティナ「――一方で追跡対象の移動を感知。……クラウ＝ソラス」
【SE】クラウ＝ソラスの「Ёжёйа」という声
アルティナ「これより、尾行を開始します」
【SE】クラウ＝ソラスの飛行音

■山岳地帯（夜）

リィンN「それから俺達は、アリサ・エリオット・マキアスに町の警護を頼み、案内役を名乗り出てくれたカイとともに、山岳地帯へ入った」
カイ「この先足場が悪くなります、気を付けてください」
フィー「ラジャ」
リィン「カイがいてくれて助かったよ」
ガイウス「ああ、さすがに俺達だけでは、道に迷いそうだからな。……怖くはないか？」

カイ「は、はい。大丈夫です。皆さんが危険を冒してまで、町を守ろうとしているんですから……ぼくが怖がるわけにはいきません」
エマ「カイ君は働き者なだけじゃなくて、勇敢ですね」
カイ、少し表情が暗くなる。
カイ「いえ……これは、罪滅ぼしみたいなものです」
リィン「え？」
カイ「ぼく以前……事件に巻き込まれて、トヴァルさんと、その時アルスターに来ていた遊撃士のふたりに助けてもらったことがあるんです」
リィン「あ、だからトヴァルさんのことを知っていたのか」
カイ「はい。その事件の時、町長さんや町のみんな、ティーリアに、すごく心配をかけてしまって……ぼくはあの時誓ったんです。今度町に何か起こったら、できることをなんでもしようって」
リィン「そうか……」
木々の向こうに幻獣の姿を確認するミリアム。
ミリアム「あ！　みつけたー！」
【SE】幻獣の唸り声
リィン・ラウラ・ユーシス・ガイウス・エマ・フィー「！」
【SE】カイ以外が、得物を構える
エマ「この気配……上位三属性が働いています。レグラムの時と似たような状況ですね。」
フィー「ん。速攻ケリをつけるべき」
ラウラ「皆、気を抜くでないぞ」
ユーシス「言われるまでもない」
ミリアム「ガーちゃんで、一撃だー！」
ガイウス「カイ、さがっていろ」
カイ「は、はい！」
リィン「行くぞみんな！」
//6名、同時音声でお願いします
ラウラ・ユーシス「ああっ」
エマ「はい！」

フィー　「(了解の意味)ヤー」
ガイウス　「おお」
ミリアム　「おっけー!」

■アルスター・広場(夜)

町に残った警備班に、差し入れを持っていこうと歩いているティーリア。

【SE】歩く足音

ティーリア「差し入れ、アリサさんたちに喜んでもらえるといいな」

花壇付近に、アルティナがいるのを見つけるティーリア。

アルティナｏｆｆ「追跡対象は現在沈黙中。引き続き警戒を継続」
ティーリア「あれ?」

近寄ってくるティーリアに気づくアルティナ。

アルティナ「……?」
ティーリア「あの、こんばんは」
アルティナ「……こんばんは。アルスターの住民と判断します」
ティーリア「うん、私、この町で花売りをしている、ティーリアって言います」
アルティナ「アルティナ・オライオンです。もう商売を行うには不向きな時間と判断しますが」
ティーリア「あ、お仕事は終わって、今はこの町の警備をしてくれてる人達に、差し入れを持っていくところなんです」
アルティナ「そうですか。しかし、彼らの拠点は反対方向のはずですが?」
ティーリア「そこの花壇に用があって――」
アルティナ「花壇……花を育てる設備と推定。私の目の前のこちらですか?」
ティーリア「うん。ここのお花を差し入れに添えるんです」
ティーリア「理解しました。では採取の邪魔になるでしょうから、わたしは下がります」

花壇から数歩下がるアルティナ。

ティーリア「あ、ごめんなさい」
アルティナ「謝罪は不要です。……見事な花壇ですね。手入れが行き届いている様子が、わたしにも確認できます」
ティーリア「ふふ、ありがとうございます」
アルティナ「貴女が管理しているのですか?」
ティーリア「うん。町長さんが、花売りを始める時に、ここを使っていいって言ってくれたんです。――そうだ」

花を一本摘むティーリア。

ティーリア「よかったら、一本どうぞ」
アルティナ「……仕事は終了したのでは?」
ティーリア「あげます。花壇を褒めてくれて、嬉しかったから」
アルティナ「(ほのかに嬉しい)……ありがとうございます」

巡回中のエリオットが、近づいてくるのに気付くアルティナ。

アルティナ「ん……? 巡回者一名の接近を察知」
ティーリア「え?」

エリオットのほうを振り返るティーリア。
アルティナはクラウ=ソラスで飛び去ってしまうが、ティーリアはまだ気づかない。

エリオットｏｆｆ「ん? あれ、そこにいるの、ティーリアちゃん?」
ティーリア「あ、エリオットさん」

ティーリアに駆け寄るエリオット。

エリオット「こんなところでどうしたの? ひとりじゃ危ないよ」
ティーリア「今、警備班の皆さんのところに行こうと思ってたんです。それに今はひとりじゃなくて、この人が――」

振り返り、アルティナがいないことに気づくティーリア。

ティーリア「あれ? いない……」
エリオット「誰かと一緒にいたの?」

ティーリア「はい。いつの間に帰っちゃったんだろう。あ、もしかしてフード被ってたし……わたし、マルクみたいに魔女と会ってしまったの？」
エリオット「あはは、魔女かぁ……そうだティーリアちゃん。僕、一通り巡回が終わったから、拠点に戻るところなんだ。一緒に行こう？」
ティーリア「はい」

■アルスター・町の入口付近（夜）

拠点につくエリオットとティーリア。

エリオット「ただいま、アリサ、マキアス」
マキアス「お疲れ、エリオット」
アリサ「おかえりなさい。あ、ティーリアちゃんじゃない」
エリオット「途中で会ったから、一緒に来たんだ。差し入れを持ってきてくれたんだって」
ティーリア「サンドイッチです。休憩に食べてください」
アリサ「わあ、嬉しいわね」

【SE】マキアスがショットガンを腰にさす

マキアス「エリオットの次は僕だったな。巡回に行ってくる」

【SE】歩き出す足音

アリサ「いってらっしゃい」
ティーリア「お気をつけて！」
マキアスｏｆｆ「ああ、ありがとう」

マキアスが見えなくなり、改めてお礼を言うアリサ。

アリサ「わざわざ来てくれてありがとうね、ティーリアちゃん」
ティーリア「皆さんが頑張ってるので、何かしたくて」
エリオット「はは、君達兄妹は、本当にしっかりしてるな～」
アリサ「ええ。カイが案内役を買って出てくれた時も驚いたし」
エリオット「そうそう。工房でも頑張ってるし、感心しっぱなし」
ティーリア「ふふ、自慢のお兄ちゃんなんです」
アリサ「きっと、カイもティーリアちゃんのことを、

自慢に思ってるわね」
エリオット「そうだね。こんな気遣い屋さんだもん」

暗い表情になるティーリア。

ティーリア「あ……。……そう、だといいな」
アリサ「え？」
ティーリア「でも、わたし、お兄ちゃんに隠し事してるから、自慢の妹じゃないと思う」
エリオット「隠し事……」
アリサ「それって、一体どんなことなの？」
ティーリア「えっと……」

自分も将来の夢と家族のことで悩んだ経験があるため、悟るエリオット。

エリオット「あの、もしかしてなんだけど……将来の夢について？」
ティーリア「え！？　ど、どうしてわかったの！？」
エリオット「やっぱりそうなんだ？　ティーリアちゃん、委員長が小説を書いてるって聞いて、目を輝かせてたでしょ？　その時、将来の夢は、小説家なのかなって思ったんだ」
ティーリア「すごい……実は、そうなんです」
アリサ「ふふ、素敵な夢じゃない」
ティーリア「で、でも、お金になるお仕事じゃないかもって、町長さんから聞いて……お兄ちゃんがわたしのために、ずっとずっと頑張ってるのに、わたしだけが好きなお仕事を選ぶなんてって……」
アリサ「ティーリアちゃん……」
エリオット「うーん。そこは、ティーリアちゃんの頑張りどころじゃないかな？」
ティーリア「え？」
エリオット「小説家になりたいことも、カイ君の迷惑かけたくないことも、ティーリアちゃんの本心なんだよね？」
ティーリア「う、うんっ。で、できればなんだけど、小説家になってお金をもらえるようになって、今度は、わたしがお兄ちゃんを支えられたらって……」
エリオット「その気持ちがあれば、十分だと思うよ。強い気持ちを持って、それを貫く覚悟があれば、ティーリアちゃんにとってもカイ君にとっても良い道が、きっと見えてくると思うな」

元気づけられるティーリア。

ティーリア「エリオットさん……」

エリオット「って……えらそうなこと言ってるけど、僕もそれに気づいたのは、最近なんだよねー」

アリサ「ちょっと、いいこと言ったんだから、最後まで格好つけておきなさいよ」

エリオット「ご、ごめん」

ティーリア「ふふっ」

アリサ「……元気出たみたいね」

ティーリア「うんっ」

町長宅でアリサにお願いしようと思ったことを、意を決して頼もうとするティーリア。

ティーリア「あ、あの、アリサさん。お願いがあるんです……」

アリサ「何かしら？」

ティーリア「わたし、今、途中までだけど小説を書いてるんです。でも結末で悩んでて……よかったら読んで、感想を聞かせてもらえませんか？」

アリサ「ふふ、なるほど。町長さんの家で言いかけたのは、そのことだったのね？ もちろんいいわよ」

ティーリア「わ、ありがとうございます！ わたし、今すぐ取ってきます！」

【SE】走り出すティーリア

ティーリア「ちょっと待っててください……！」

アリサ「え！ ティーリアちゃん、ひとりじゃ危ないわよ！」

エリオット「すごい勢いでいっちゃった……」

アリサ「追いかけなきゃっ」

【SE】ショットガンの音（off）

マキアスが巡回に向かった方角から発砲音が聞こえ、はっとなるふたり。

アリサ&エリオット「え！？」

アリサ「今の……！」

エリオット「ショットガンの発砲音……マキアスだ！」

■山岳地帯（夜）

【SE】駆ける足音

幻獣向かっていき、幻獣に斬りかかるリィン。

リィン「（跳躍）……っ。（一太刀）はあああ！」

【SE】幻獣を斬る音

【SE】幻獣の断末魔&消えていく音

リィン「ふぅ……」

【SE】リィンが刀を腰にさす

ミリアム「やっほー！ ビクトリー！」

リィン「大丈夫だったか、カイ」

カイ「は、はい、なんともありませんっ」

エマ「お疲れ様でした。早く町に戻りましょう。ティーリアちゃんがカイ君の帰りを待っているでしょうから」

リィン「ああ、警備班にも連絡しないとな」

何かに気づき、町のほうを見るガイウス。

ガイウス「ん……？」

ユーシス「どうした、ガイウス」

ガイウス「妙な風が吹いている。町のほうからだ」

ユーシス「なんだと？」

フィー「……っ。見て」

町を見下ろし、燃えていることに気づく一同。

カイ「え！？」

ラウラ「……っ……あれは！」

ミリアム「町が燃えてるよー！？」

フィー「ただの火事じゃないね。……あの火の手の上がりかた……猟兵っぽい」

リィン「アルスターが襲われているのか！？」

カイ「そんな……ティーリアが！ みんなが……！」

ユーシス「くっ、貴族連合の雇った猟兵か！？ だとしたら、一体何の目的で……！」

リィン「分からないがこの町を……アルスターをユミルのようにさせはしない！」

エマ「リィンさん……」

リィン「とにかく、急いで戻ろう！」
ガイウス「ああ！」

【ＳＥ】走っていく足音（複数）

■山岳地帯・麓（夜）

【ＳＥ】走ってくる足音（複数・幻獣討伐班）

アリサｏｆｆ「あ……！　リィン、みんな！！」
リィン「……！？　アリサ！？」

麓で、エリオット、マキアス、アルスターの住民数人と一緒にいるアリサ。

アリサ「よかった……ここにいれば、会えると思ったわ」
リィン「こっちも安心したよ。連絡がつかなかったから」
エリオット「ごめん、町の人を連れ出すのに必死で、ＡＲＣＵＳを使う余裕がなかったんだ」
フィー「火の手があがっているのが見えた。やっぱり、猟兵？」

脇腹を負傷しているマキアス。

マキアス「……ああ、そうだ……くっ」
ミリアム「マキアス！？　怪我してるの！？」
マキアス「少し脇腹をな、かすり傷だ」
エリオット「巡回して猟兵と出くわしたんだ」
エマ「じっとしててください、今、魔法で直しますから」
マキアス「すまない」
エマ「…Lux solis medicuri eum…！（ルクス・ソリス・メディキューリ・エウム／陽光よ彼を癒せ…！）」

エマの呪文詠唱はゲーム内と同じ表現（ラテン語と日本語の同時読み）にしてください。

【ＳＥ】ぽうっという光が溢れる音（治癒魔法）

アリサ「悔しいわ。町の警備で残ったっていうのに……なんとか一部の人を避難させることしかできなかった」
ラウラ「多勢に無勢、三人では致し方あるまい」
アリサ「……ごめんなさい、カイ」
カイ「……っ！」
リィン「町は今どうなってるんだ？」
エリオット「完全に占拠されちゃってるね……町の人のほとんどが拘束されて、監視がついてる。マキアスとやりあったし、僕達仲間がいることも、ある程度予想してると思うから……いざという時には……」
ユーシス「町の人間を盾にするつもりか……下手に手出しはできんな」
カイ「そ、そんな……！」
リィン「くそ……なんとか打つ手を考えないと」

【ＳＥ】土を踏む音

反射的に、警戒するリィン。

リィン「……っ、誰だ！？」
トヴァル「よう。困っているみたいだな」
リィン「え？」
カイ「（嬉しい）あ……！」
トヴァル「助っ人が必要なら、手を貸すぜ？」
リィン「と、トヴァルさん……！」

※時間経過

リィンＮ「トヴァルさんの突然の登場に驚きつつも、さっそく俺達は、アルスターを解放するための作戦を立て始めた。探りを入れたところ、町の人は、四か所に拘束されていることがわかった。そこを一斉に制圧しようと……俺達は四つの班に分かれ、行動を開始することにした」

カイレジャスのトワに連絡を取っているリィン。

トワ（通信）「うん、作戦はわかったよ。いくら内戦に介入しないといっても、放っておける事態じゃない

もんね」
リィン「ええ……なんとか早急に解決できるよう、みんなでやってみます」
トワ（通信）「よろしくお願いします。作戦が成功したら迎えに行くから、すぐ連絡して？」
リィン「はい、わかりました」
トワ（通信）「トヴァルさんが来てくれたし、リィン君たちなら大丈夫だと思うけど……気をつけてね」
リィン「ありがとうございますトワ会長。また連絡します」
トワ（通信）「うん、待ってるね！」
【SE】ARCUSを切る音
【SE】ARCUSを閉じる音
リィン「みんな、準備はいいか？」
アリサ「いつでもいいわよ」
マキアス「僕もだ。怪我も問題ない」
リィン「よし……トールズ士官学院《Ⅶ組》。これよりアルスター解放作戦を開始する。各班、割り当てられたポイントに向かい、夜明けとともに行動を開始してくれ！」
Ⅶ組一同・トヴァル「（おう！　などのアドリブお願いします）」

■地下道（夜明け前）

トヴァルとリィンの班。
【SE】ぴちょん、という水音
リィン「夜明けまであと少しか……」
トヴァル「この地下道から、人質が拘束されている町の入口付近へは、そこの地上口を出ればすぐだ」
リィン「わかりました」
トヴァル「俺が一発アーツをかましてやるから、その隙に斬りこんでくれ。俺とお前さんなら、なんとかふたりでも問題ないだろう」
リィン「はい。トヴァルさんに来てもらって、本当に助かりました。それにしても、随分タイミングよかったですよね？　東部に来ているのにも驚きました」
トヴァル「（やれやれという感じで）……人使いの荒いシスターから連絡があったんだよ。アルスターに猟兵が流れこんだって情報が裏から回ってきたってな。それで、アルスターは初めてじゃないし、ちょうど物資配達をしているお前さん達ともつながりがあるってんで、来ることになったんだ」
リィン「なるほど……。人使いの荒いシスターって……？」
トヴァル「そこは聞いてくれるな。おっと……そろそろ時間だ。作戦を開始しよう。遅れるなよ？」
【SE】刀を抜き放つ音
リィン「はいっ」
トヴァル「行くぜ！」
【SE】地下道から地上に出る小さな扉（木）を蹴り開ける音

■アルスター・町の入口付近（朝）

真後ろからトヴァルとリィンが登場し、驚く猟兵二人。
猟兵A「な……！　なんだ！？」
トヴァル「地下道の入口の真ん前にぼーっと突っ立っているとは、間抜けだな！　喰らえ、エア・ストライク！」
【SE】風のアーツの音（豪風）
徴兵A「（吹っ飛ばされ）うぎゃあああ！」
猟兵B「お、おい！？（銃を構える）くそ、お前ら……！」
【SE】銃を構える音
すでに、猟兵Bの懐まで間合いをつめているリィン。
リィン「遅い……！（一太刀）はぁ！」
【SE】一閃の音
猟兵B「（みねうちくらう）うぐ……っ！（倒れる）ぐはぁっ」
【SE】地面に倒れる音
【SE】リィンが刀を収める

トヴァル「よし、それじゃあ、みんなを避難させるぞ。お前さんは気絶させた猟兵をふん縛ってくれ」
リィン「わかりました」

■アルスター・教会外（朝）

アリサ、エマ、ガイウスの班。
【SE】ぽうっという、光が溢れる音
アリサ「どう？　エマ？」
エマ「はい。問題なく、教会の中へここにいる三人を転位することができそうです」
ガイウス「中の気配を読むかぎり、立っている人間はふたり、それが猟兵で間違いないだろう」
エマ「では、そのふたりの背後に回れるように、なんとかやってみますので、アリサさん、ガイウスさん、準備をお願いします」
【SE】槍と弓を構える音
ガイウス「ああ」
猟兵D「ごはっ」
【SE】倒れる音（ふたつ）
アリサ「ふう、あっけなかったわね」
ガイウス「エマのおかげだな」
エマ「（安堵の息）はぁ……うまくいってよかったです」
町の人達を振り返るエマ。
エマ「皆さん、もう大丈夫です。ここから、町の外に一旦避難しましょう」
ガイウス「俺が先導しよう。ついてきてくれ」
アリサ「後ろは私とエマがつくから、心配いらないわ」
【SE】住民達が外に移動する足音（複数）
アリサ「エマ、行きましょう。さっき不意を突かれた分、今度はしっかり、みんなを守ってみせるんだから」
エマ「ええっ」
アリサ「わかったわ」
エマ「それでは、行きます……！」
【SE】ぽうっという、光が溢れる音
エマ「は……っ」
【SE】シュンという転位の音

■アルスター・教会内部（朝）

【SE】転位完了の音
【SE】降り立つ靴音
靴音に振り返る猟兵くずれ。
猟兵C「ん？」
ガイウス「はあっ」
アリサ「この……っ」
それぞれ得物で、打撃を喰らわせるガイウスとアリサ。
猟兵C「ぐっ」
【SE】駆けだす足音（ふたつ）

■アルスター・公園付近（朝）

ラウラ、フィー、エリオットの班。
公園の植木辺りから、公園内を覗いている3人。
【SE】茂みの音
以降、敵に気づかれないように、こっそり話している。
フィー「やっぱり、これだけ見通しのいい公園だと、奇襲は不可能だね」
ラウラ「ならば、夜の内に練った作戦を遂行するとしよう」
エリオット「うう……やるんだ……。い、いやいや、頑張らないと。（深呼吸してから）それじゃ、いってきます。ラウラ、フィー、後はよろしく」
ラウラ「うむ、任せるがいい。頼んだぞ、エリオット」
【SE】茂みの音
猟兵崩れの前に、住民を装って登場するエリオット。（演技

には緊張が出てしまっている）

猟兵Ｅ「ん……？　おい、そこのお前っ」

【ＳＥ】銃を構える音

エリオット「え？　ぼ、僕ですか？　って、う、うわぁあ。なんなんですか貴方たちは。そ、そんな怖いもの、僕に向けないでくださいよっ」

猟兵Ｅ「……チッ、なんだ、ただのガキか」

猟兵Ｆ「全員とっ捕まえたつもりだったが……」

エリオットの様子を見ながら、機会をうかがうラウラとフィー。

ラウラ、フィーは小声で話している。

猟兵Ｅｏｆｆ「怪我したくなかったら、そこの奴らと一緒じっとしてろ」

エリオットｏｆｆ「ひ、ひえええ」

ラウラ「うむ。なかなかの名演技ではないか」

フィー「っていうか、本当に怖がってない？」

猟兵Ｆｏｆｆ「ん……？」

ラウラ&フィー「っ！」

猟兵Ｆｏｆｆ「おい、そこの茂み、誰かいねーか？」

猟兵Ｅｏｆｆ「あ？」

ラウラ「……気づかれたっ」

フィー「気配は消してたのに……アイツ、ちょっとできるね」

その時、動揺して足をもつれさせるエリオット。

エリオットｏｆｆ「う、うわあ」

フィー「あ……」

猟兵Ｅｏｆｆ「ん？」

エリオット、体勢を崩したことを利用してわざと猟兵に倒れこむ。

エリオットｏｆｆ「し、しまったー！　足がもつれてー！」

猟兵Ｅ&Ｆｏｆｆ「うお！？」

ラウラ「体勢が崩れた、今だ……！」

フィー「ラジャ」

【ＳＥ】茂みからふたりが飛び出す

ラウラ「（駆ける）うおおおおおっ」

フィー「（跳躍）ふっ」

猟兵Ｅ&Ｆ「な……！？」

ラウラ「せいやっ！」

フィー「はぁ！」

猟兵Ｅ「ぎゃあっ」

猟兵Ｆ「（当身をくらい）く……！　（意識遠のく）あ……」

【ＳＥ】倒れる音（ふたり）

フィー「ミッションコンプリート」

ラウラ「エリオット……あの場でわざと転ぶとは、見事であった。うまくいったのは、そなたのおかげだ」

エリオット「あはは、ありがとう。（小声）実は最初本気でつまづいたんだけど、黙っておこ……」

■アルスター・宿場（朝）

マキアス、ユーシス、ミリアムの班。

宿場の敷地内に潜入している3人。

【ＳＥ】にわとりの鳴き声

ミリアム「へー、この宿場って、鶏小屋があるんだね。こんな騒ぎがなければ新鮮な卵料理が食べられたんだと思うと、許せないなー」

マキアス「なんでこんな時に、卵料理の話ができるんだ。少しは緊張感をもってくれ……」

ユーシス「……この班分けに異議を申し立てたい……」

ミリアム「えーなんで？　ボクとユーシスとマキアスってトヴァルが決めたんだし、ボクがいれば、人質はすぐ解放できちゃうよ？」

ユーシス「ほう？　宿場の敷地内に入ることはできたが、狭い部屋に人質と猟兵がひとまとめにいるため、むやみに手が出せず仕方なくその部屋が確認できる鶏小屋に潜んでいることを忘れているわけではないだろうな？」

ミリアム「そんな最初っから最後まで全部説明しなくても、ちゃんとわかってるってばー。（得意げ）作戦も考えたし」

ユーシス「……一応聞いてやろう」
ミリアム「ガーちゃんだったら相手に気づかれずに中に入れるよね?」
マキアス・ユーシス「……は?」
ミリアム「そんで、猟兵に十分近づかせたところで、見えるようして、猟兵がガーちゃんに気を取られてるうちに窓から突入する! うん、ばっちり!」
マキアス「おい、そんなことしたら……!」
ミリアム「(さえぎって)それじゃ作戦開始〜!」
マキアス「って、人の言葉を最後まで聞かないか!」
ミリアム「ガーちゃん、れっつごー!」
マキアス「待て、実行するにしてもこっちの突入準備ができてからにしてくれ!」
ユーシス「ったく……!」

【SE】剣とショットガンを構える音

ユーシス「ゆくぞ……!」
マキアス「あ、ああ!」
ミリアム「とつにゅー!」

■宿場・客室(朝)

アガートラムに驚いている猟兵たち。(町の人も怯えている)

【SE】アガートラムの「Ж" пэгк」という声

猟兵G「な、なんだこいつはっ! どっから現れた……!」
猟兵H「く、来るな! こ、この、ぶっこわしてやる——」

【SE】銃を構える音
【SE】チャキッという剣の音

猟兵の首に剣をつきつけるユーシス。

猟兵H「ひ……!?」
ユーシス「今すぐその銃を降ろせ。その首を俺の剣で傷つけられたくなければな」
猟兵G「いつの間に……!」
マキアス「おっと」

【SE】ショットガンをつきつける音

マキアス「あんたも動かないでくれ。引き金を引かれたくないだろ?」
猟兵G「く、くそ……」
ミリアム「ガーちゃん、とっつかまえちゃってー」

【SE】アガートラムの「Ж" пэгк」という音

猟兵ふたりを抱え込むアガートラム。

猟兵G「う、うわああ!」
猟兵H「は、離せええ!」
ミリアム「えへへ、やっぱりガーちゃんがいれば無敵だね」
マキアス「(複雑)……」
ユーシス「(ため息)はぁ……」
ミリアム「みんなーもう大丈夫だよー。って……」

アガートラムを怖がっている人質たち。

ミリアム「あれ?」
町長「(怖がって)き、君たち……そ、その、白いものは……」
ミリアム「あ、町長さん。ここに捕まってたんだね。ねえ、猟兵は捕まえたのに、なんでみんな怖がってるの?」
ユーシス「当たり前だ……」
マキアス「人質にされてる時に、こんな得体のしれない人形を見せられたら、当然の反応だと思うぞ……」
ミリアム「そ、そんな〜っ。ガーちゃんは怖くないよー」

■アルスター・町の入口(昼)

リィンN「こうして、各所の人質を解放した俺達は、町の人を避難場所に誘導した。けれど、なぜかティーリアの姿はどこにもなかった。まだ他にも猟兵が残っている可能性がある。俺達は一緒に行くというカイを連れて、アルスターの町に戻った。町を巡回してほどなく——」

【SE】機甲兵のずしん……という足音

リィン「ん!? なんだ……!?」

トヴァル「この足音……おいおいまさか、機甲兵じゃ……っ」

ティーリアoff「きゃああああ！」

カイ「あれは、ティーリアの声……！」

リィン「広場のほうだ！ みんな、急ぐぞ！」

【SE】駆けだす足音（複数）

■アルスター・広場（昼）

猟兵が機甲兵を持ちだし、怯えるティーリアに迫っている。

【SE】機甲兵の歩行音

【SE】後ずさりする音

ティーリア「あ、ああ……」

猟兵Ⅰ「きひゃひゃ、人質全員に逃げられちまったが、まさかこんなところに残ってるとはなぁ……！」

ティーリア「……っ、だ、誰か……！」

猟兵とティーリアの間に、矢を射るアリサ。

アリサoff「は……っ！」

【SE】矢が飛んでくる音

【SE】機甲兵に矢の衝撃

猟兵Ⅰ「な！ なんだぁ！？ どっから矢が！」

以降、Ⅶ組とカイ、ティーリアに向かって駆け寄っている。

アリサoff「その子に指一本でも触れたら、私が許さないわよ！」

カイoff「ティーリア！」

ティーリア「あ！ アリサさん！ お兄ちゃん！！」

猟兵Ⅰ「お前らだな、邪魔してくれたのは！ どんな野郎どもかと思えばガキじゃねぇか」

【SE】走り続ける足音（しばらく続く）

【SE】機甲兵の歩行音

トヴァル「やっぱり、猟兵がまだ残ってやがったか」

ラウラ「しかも機甲兵まで持ち出してくるとは……！ やはり今回町を襲ったのは貴族連合に雇われてのことなのか」

エリオット「機甲兵一体でも、こんな小さな町じゃ、建物が全部めちゃくちゃにされちゃうよ！」

トヴァル「リィン、お前さんならあの機甲兵、なんとかできるな？」

リィン「はい、任せてください！」

【SE】立ち止まる足音（複数）

トヴァル「カイ！ あのデッカイのは俺らがなんとかするから、その隙にティーリアを連れて、ここから離れろ！」

カイ「わ、わかりました！」

アリサ「私がサポートするわ、カイ」

猟兵Ⅰ「ガキどもが正義の味方ぶってんじゃねぇぞ！ 楽しい楽しい略奪の時間を不意にしやがって、全員ぶっ殺してやる！」

リィン「略奪だと？」

【SE】機甲兵が突進してくる

【SE】建物に機甲兵がぶつかり、崩れる

崩れた建物が近くだったため、悲鳴をあげるティーリア。

ティーリア「きゃあああ！」

リィン「……！？ しまった！」

エマ「いけない！ 崩れた瓦礫が、ティーリアちゃんに！」

マキアス「くそ、間に合わない……！」

カイ「……っ！ ティーリアあああぁ！」

【SE】チリン、という鈴の音

アルティナ「……クラウ＝ソラス」

ティーリアに覆いかぶさるようにして助けるクラウ＝ソラス。

【SE】瓦礫をクラウ＝ソラスが受け止める音

ティーリア「（爆音に驚く）……っ。あ、あれ？ 痛く、ない？」

アルティナ「間に合いましたね」

リィン「あの子はまさか……」

ミリアム「あ、クーちゃんだ！」

リィン「瓦礫を受け止めた……ティーリアを守ったの

か?」

カイ　「(安堵)……っ!　(駆け出す)ティーリア……っ」

【SE】カイが駆け寄る

【SE】クラウ=ソラスの「Ё- ж ё й а」という声

【SE】クラウ=ソラスが瓦礫をどかす音

カイ　「ティーリア、大丈夫か!?」

ティーリア「う、うん。なんともないわ」

カイ　「よかった。なんでこんなところにひとりでいたんだよ!」

ティーリア「ご、ごめんなさい。ここには花壇があるから、心配で」

アルティナ「保護対象の安全を確保します。クラウ=ソラス」

【SE】クラウ=ソラスの「Ё- ж ё й а」という声

【SE】クラウ=ソラスの攻撃音(ミリアムのギガント・ブレイクのようなイメージ)

【SE】機甲兵に直撃する音

猟兵I　「(衝撃が来て)うぎゃあああっ!」

マキアス「な!　どういうことだ!?　機甲兵を撃ったぞ!?　味方同士ではないのか?」

ガイウス「どちらにしろ今が好機だ、リィン!」

リィン　「ああ!」

ヴァリマールを呼び出すリィン。

リィン　「来い――《灰の騎神》ヴァリマール!」

ヴァリマール(エコー)「応(オウ)――!」

【SE】飛翔音

ヴァリマールが空から接近してきて、動揺する猟兵。

猟兵I　「ああん!?　あ、あれは領邦軍の連中が噂してた!!　な、なんでこんなところに飛んで来やがるんだよ!」

【SE】ヴァリマールの着地音

【SE】リィンの体が光に包まれコックピットに吸い込まれる

■ヴァリマール・コックピット

リィン　「(コックピットに着席)……っ」

【SE】パネルを操作する音

ヴァリマール「我が力を求めるか、起動者(ライザー)よ」

リィン　「ああ、頼んだぞ」

ヴァリマール「任せるがいい」

リィン　「目標は前方、機甲兵!」

ヴァリマール「承知した――!」

猟兵Ioff「うがあ!　ちくしょう!　こんなところでやられてたまるかあああ!」

【SE】機甲兵の走行音

リィン　「この町を無遠慮に脅かした行為、許すわけにはいかない!」

ヴァリマール「ライザーがその力を望むなら、我はそれに応えよう」

リィン　「はあ!」

【SE】機甲兵とヴァリマールが衝突する音

猟兵I　「(押し切ろうとして)ぐぎぎぎ……」

リィン　「――行くぞっヴァリマール!」

ヴァリマール「応!」

【SE】ヴァリマールが機甲兵を振り払う

猟兵I　「ぐおっ!」

リィン　「おおおおお!」

機甲兵に渾身の一撃を与える。ヴァリマールとリィン。

リィン　「くらえ、業炎撃(ごうえんげき)!」

【SE】技が決まる音

【SE】機甲兵が動作不能になった音

【SE】機甲兵が傾く音

機甲兵が倒れていき、絶叫する猟兵。

猟兵I　「うわ、うわあああああ!」

【SE】機甲兵が倒れる音

トヴァル「やれやれ、一件落着だな」

見たことない戦闘風景に、呆然とするカイとティーリア。

カイ「すごい……」

ティーリア「……リィンさん、まるでペドロみたい」

※時間経過

■アルスター・広場（夕）

リィンN「こうして、アルスターでの一件は幕を閉じた。街の被害はなんとか最小限に抑えることができ、町長によればすぐにでも復興を始められるとのことだった。事件解決を報告した後……俺達は町に残っていたアルティナによって、今回の騒動の原因を知ることとなった」

アルティナから話を聞いているⅦ組。

アルティナ「人払いはしていただけたでしょうか？」

リィン「ああ」

アルティナ「まずは今回の経緯について説明が必要と判断します。この度、アルスターを襲撃したのは、元々貴族連合と契約を交わした猟兵たちですが、作戦任務の放棄、及び機甲兵の持ち出しを無断で働いた者たちです」

エリオット「え？ つまり……貴族連合から逃げて、ついでに機甲兵を盗んでったの？」

アルティナ「その認識で、相違ありません。わたしがルーファス・アルバレア卿に命じられたのは脱走者の捕縛、そして機甲兵の奪還もしくは必要に応じての破壊でした」

リィン「そうだったのか……」

エマ「じゃあ、今回の件に、貴族連合は……」

アルティナ「少なくとも彼らの行動はルーファス卿の命令によるものではありません」

ラウラ「いわゆる猟兵崩れだな。合点がいったというべきか、なんというか……」

アルティナ「そして今回の件に関して、ルーファス・アルバレア卿より、伝言を預かっています」

ユーシス「兄上から……？」

アルティナ「『まずは貴族連合軍の総参謀として、アルスターを救済してくれたⅦ組の諸君に謝辞を述べる。我らがいずれ正規軍を圧倒し、帝国を平定したあかつきには、今回のような不祥事もなくなることを約束しよう。未だ学院の理事に身を置く者として、その日まで諸君らが壮健なることを願ってやまない』……とのことです」

リィン「……っ、それは……」

トヴァル「そりゃまた……謝辞と言いながら、痛烈なプレッシャーをかけてきたな」

マキアス「ええ。遠回しに邪魔をするなと言われているようです」

アルティナ「続けて……」

ユーシス「む？ まだあるのか？」

アルティナ「ええ。蒼の機神のライザーから皆さんに伝言です」

リィン「クロウから!?」

アルティナ「はい」

ガイウス「Ⅶ組にクロウから言伝てがあるのは、あの決別以来初めてだな」

アルティナ「『まずは再集結おめでとさんと言っておくぜ。紅き翼を駆り、帝国東部で活動を始めたことは既に聞いている。この戦時下でⅦ組としてお前さん達がどう動き、どんな答えを見出すのか……今から楽しみにしている。またいずれ会おう』とのことです」

リィン「……そうか」

ミリアム「うーん。相変わらず裏で何考えてるかわかんないなー」

リィン「はは、まあ……言葉通り受け取ればいいんじゃないか」

アルティナ「確かに伝えました。では、これより帰還します」

アリサ「あ、ちょっと待ちなさい！」

アルティナ「これ以上ここに留まる理由は、ないと判断しますが？」

アリサ「ティーリアちゃん――あなたが瓦礫から助けてくれた子が、お礼を言いたいそうなの。今から呼んでくるわ」

アルティナ「礼は不要と伝えてください」

アリサ「でも……」

アルティナ「わたしは……花のお返しをしただけですから」

アリサ「え？」

アルティナ「クラウ＝ソラス」

【SE】クラウ=ソラスの「Ё'жёйа」という声
クラウ=ソラスに乗るアルティナ。

アルティナ「それでは失礼します。また会う機会もあるでしょう」

ミリアム「ばいばーい！ クーちゃんもまったねー！」

【SE】クラウ=ソラスの「Ё'жёйа」という声（混乱？）

アルティナ「妙な呼び名でクラウ=ソラスを混乱させないでください。では――」

空に飛び立っていくアルティナ。

エマ「本当に私たちへの説明と伝言のために残っていたみたいですね」

フィー「ん。あっさり行っちゃった」

アリサ「まあ……あんまり一緒にいるのもどうかと思うけど……ティーリアちゃん、がっかりするわね」

ラウラ「そういえばアリサ、先程ティーリアから何か紙の束を受け取っていたが……あれはなんだったのだ？」

アリサ「ん？ ふふ、あれはね……私とティーリアちゃんの秘密の約束よ」

■カレイジャス前（夜）

リィンN「それから俺達は、カレイジャスが迎えに来るまでの間、町長や町の人々に挨拶をして回った。そしていよいよ、アルスターを去る時が訪れ……所用を済ませてから帝国西部に戻るというトヴァルさんと、カイとティーリアが見送りに来てくれた」

トワ「西部までお送りしなくていいんですか、トヴァルさん」

トヴァル「ああ、俺のことは気にしないでくれ」

トワ「そうですか……わかりました。今回は、みんなをサポートしてくれて、本当にありがとうございました」

トヴァル「ま、あれくらいは人生の先輩として当然だ。（みんなへ）みんな、またしばらく会えなくなるだろうが、元気でな」

マキアス「ええ、トヴァルさんも」

トヴァル「ほら、カイもなんか言いたいんだろう？」

カイ「あ、はい。……本当にありがとうございました。ぼくもいつか皆さんのように強くなって、みんなを守れるようになりたいなって、すごく思いました」

リィン「ん？ はは……君なら、もう十分強いと思うけどな」

カイ「え？」

リィン「君は、今回ずっと町の人やティーリアのことを考えて、助けようって行動してたじゃないか」

ガイウス「そうだな。カイの年頃で、ここまで俺たちの手伝いをしようとしてくれる子は、なかなかいない」

エリオット「うんうん。ずっとすごいなぁって、感心してたよ」

リィン「カイはちゃんと、心の強さを持ってるよ」

ユーシス「ああ、そこは誇ってもよいだろう」

マキアス「なんで君はこういう時もえらそうなんだ……」

カイ「あはは、心の強さ……。ありがとうございます、少し自信がつきました」

リィン「これからもティーリアと仲良くな」

カイ「はいっ」

ティーリアと話しながら、カイの様子を見ている女子陣。

アリサ「男子のみんな、カイと盛り上がってるわね」

アリサに自作小説を渡していたティーリア、気になる。

ティーリア「……。あ、あの、アリサさん。その……」

アリサ「……ふふ、わかってる」

ティーリアの小説を、カレイジャスが来るまでに読んでいたアリサ、ティーリアに返す。

【SE】紙の音

アリサ「はい、これ返すわね。ちゃんと読ませてもらったから」

ティーリア「あ、ありがとうございます！ 時間なかったのに……」

アリサ「とっても面白かったから、あっという間に読

んじゃったの。さすがティーリアちゃんが書いた小説ね」

ティーリア「本当ですか!?」

アリサ「ええ」

ふたりの会話に入ってくる女子たち。

ラウラ「なるほど、それがアリサとティーリアの秘密の約束か」

ティーリア「あ……っ」

フィー「ティーリアも、エマみたいに小説を書いてたんだ」

ミリアム「すっごいじゃん!」

エマ「ずるいですよアリサさん、ひとりだけ読ませてもらったんですか?」

アリサ「ふふん。ティーリアちゃんは、(強調)私に、読んで欲しいって言ってきたんだから」

ティーリア「あのっ見せたくなかったわけじゃないの。ちゃんと物語になってるか、アリサさんに見てもらいたくて……」

アリサ「十分だったと思うわよ。花の精霊たちが主役なんて素敵だったし、登場人物が枯れ果てた国を救うたびに、その国が花に満ちていく設定なんて、想像するだけでうっとりしちゃったわ。ティーリアちゃんならではの発想ね」

ティーリア「わあ、嬉しい……っ」

アリサ「でもごめんなさい。結末に悩んでるってことだったけど……いいアドバイスが浮かんでこなくて」

ティーリア「あ、それなんですけど……実は、思いついたんです」

アリサ「あら、そうなの?」

ティーリア「うん。この物語は、女神様の力が弱って、魔物が世界を枯らしてしまうようになったから、精霊たちが女神様を救うために頑張るんだけど……最後は、女神様も立ち上がって主人公たちの仲間になるようにしたいなって」

アリサ「へえ、戦う女神様……いいじゃないっ」

ティーリア「皆さんが町のために頑張ってくれているのを見て……わたしも、皆さんみたいにお互いを信頼し合ってる仲間が、欲しくなっちゃったの……きっと、この女神様も、精霊たちのことを見守ってるうちに、自分も仲間に入りたくなるんじゃないかなって、考えたんです」

アリサ「ティーリアちゃん……」

ティーリア「ふふ、わたし、この物語をきっと完成させてみせますね。そしていつか、最後まで読んでもらいたいです」

アリサ「頑張って。楽しみにしてるわ」

ティーリア「はい!」

【SE】カレイジャスのエンジン音

以降、一同少し声を張り上げる。

リィン「それじゃあ、これで失礼します」

トヴァル「ああ、またな」

カイ「本当にありがとうございました」

ティーリア「またいつでも遊びに来てくださいねー!」

アリサ「ええ、ティーリアちゃんもカイも、元気でね」

カイ&ティーリア「はい!」

【SE】カレイジャスが浮上する

■アルスター・上空

ミリアム「ばいばーい、ばいばーい!」

エマ「ふふ、カイ君とティーリアちゃん、ずっと手を振ってくれてますよ」

フィー「ふたりとも、とってもいい子だった」

ラウラ「うむ。将来が楽しみだな」

マキアス「将来か……。あの子達が僕らの歳になった頃、内戦は終わっているんだろうか」

ユーシス「フン、どうだろうな……だが、長引けば長引くほど、あの年頃の者達が将来を脅かされるのは事実だろう」

アリサ「そうならないためにも、私達に今できることを、少しずつでもやっていかないとね」

ガイウス「そうだな……あの子達に良い風の導きが訪れるよう、力になれたらいいと思う」

エリオット「うん、第三の風としてね」

リィン「ああ。よし、みんな。早速次の目的地に向かって出発だ!」

一同「(おう! などのアドリブをお願いします)」

■アルスター・地上

カレイジャスが見えなくなるまで見送っていたトヴァル、

ティーリア、カイ。

【SE】カレイジャスの飛行音（off）

トヴァル「行っちまったな」

ティーリア「うん……。また、会えるといいな」

カイ「そうだね」

ティーリアが持っている紙を見るカイ。

実はカイはティーリアが小説を書いていることも、小説家になりたいことも勘付いているので、少し試すような口調になる。

カイ「ところでティーリア。その紙の束は何？」

ティーリア「え！？ あ、えっと……これは……っ」

トヴァル「なんだなんだ？ 見せてくれよ」

ティーリア「い、今はまだ、ダメ！ ちゃんと完結させてから……！」

トヴァル「（勘付き）ほう、完結──ねぇ？」

ティーリア「あ……っ」

カイ「（思わず笑ってしまう）ふふ、あははっ」

ティーリア「え？ お兄ちゃん？」

カイ「ごめんティーリア。本当は全部知ってたんだ」

ティーリア「え？ そ、そうなの？ どうして……」

カイ「ティーリアは隠すのが下手だから」

ティーリア「うそ！」

トヴァル「はは、さすが兄だな」

カイ「出来上がったら、ぼくにも読ませてくれるよね？」

ティーリア「それは……。（意を決して）……うん、一番に読んで欲しいわ！」

カイ「楽しみにしてる」

トヴァル「それにしてもお前さんが小説を書くなんてなー。ん？ もしかして……誰かモデルにしてたりするのか？」

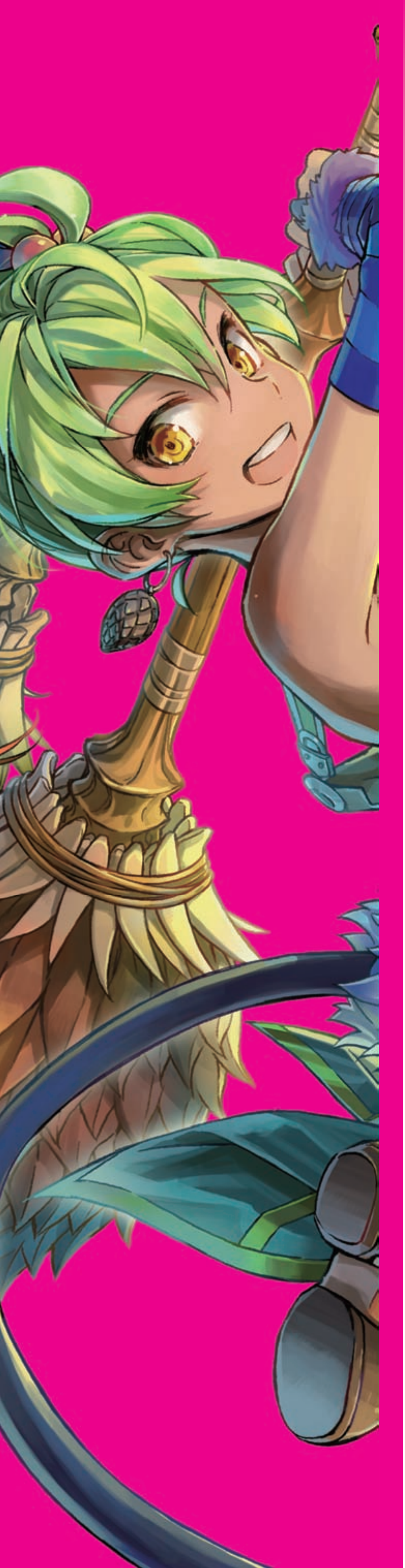
ティーリア「……ふふ、まだ秘密」

トヴァル「その笑顔、あやしーな」

ティーリア「でも、カーネリアみたいに、素敵なお話にします！」

トヴァル「（苦笑交じり）はは、そうくるか……。ま、楽しみにしておきますかね」

了



月刊FALCOM MAGAZINE Vol.62

発行人　田中一寿

発行協力　日本ファルコム株式会社

編集　小渕智幸
大場恵美子

デザイン・DTP　さとうだいち／石橋青大／金田悠未

表紙ロゴデザイン　荻窪裕司（ビーニーズ）

発行　株式会社フィールドワイ
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F
TEL 03-5282-2211（代表）
http://www.field-y.co.jp/

制作・販売協力　シナノ印刷株式会社